ニシャン・サマン傳　譯注

河　内　良　弘

解　　題

ニシャン・サマン伝は古くから満州・錫伯・達斡尓・鄂温克（ソロン）・赫哲等，ツングース系諸民族の間にひろく語り伝えられた口誦文学である。この物語の粗筋は，まず明の時代，ロロという村にバルドゥ・バヤンという富者がいた。夫妻には一人息子がいたが，15歳の時，山に狩に行き途中で病歿した。悲しんだ両親は善行を積み，神に祈願したため50歳にして男子を得た。喜んだ両親はセルグダイ・フィヤンゴと名づけ，いつくしんだが，この子も15歳の時，山に狩に行き，突然発病し死亡した。同行の家僕等が遺体を運び帰ると，両親等は嘆き悲しみ，莫大な財産を惜しみなく費して喪儀をおこなった。このとき腰の曲がったよぼよぼの老人が門口に現われ，バルドゥ・バヤンと問答の後，ここから遠くないニシハイ河の河岸に住むタワンという女サマンが死人を生きかえらせる霊力があると告げ，五色の雲に乗り去って行く。バルドゥ・バヤンは大いに喜び天に向かって叩頭し，家僕を従えニシハイ河岸に向かい，ニシャン・サマンを探しあて，息子の蘇生を懇請する。はじめためらっていたニシャン・サマンはようやく承諾し，バルドゥ・バヤンの家に来て祈禱しはじめるが，手鼓の調子が合わず誦念できない。ニシャン・サマンはナリ・フィヤンゴという助禱巫の助けを得，身に奇怪な衣服を着け，腰鈴，スカートをはき，頭に九雀の神帽を戴き，身をふるわせ誦念し始める。誦念後昏迷して倒れ，セルグダイ・フィヤンゴを求めて黄泉の国に到る。ニシャン・サマンは黄泉の国で骨牌遊びをしていたセルグダイ・フィヤンゴを大鳥の爪に摑ませて救出する。閻羅王は怒りモンゴルダイ・ナクチュに命じ後を追わせるが，ニシャン・サマンはモンゴルダイ・ナクチュと言い争いの末，セルグダイ・フィヤンゴの寿命に90歳を加えさせることとして，生国への道をいそぐ。その途中で嘗ての夫に出会

った。夫も自分を生国に連れ帰るよう強迫するが，ニシャン・サマンは大鶴に夫を摑ませ，酆都城に投げ入れさせて去る。その後，ニシャン・サマンは黄泉の国を見聞し，セルグダイ・フィヤンゴを連れ，もと来た道をもどり紅河に着き，河主に礼物を支払い，手鼓を河に投げ入れ，独木舟で河を渡り，この世に帰り着き蘇生する。こののちニシャン・サマンがセルグダイ・フィヤンゴの遺体に魂をふき込むと，しばらくして蘇生し，家人と共に喜びあう，というもので，末尾に Dekdengge がこの手稿本を書いた経緯が記されている。

清朝一代を通じ，満州語で書かれた文献はおびただしい数に上るであろう。しかしその大部分は『満州実録』のような歴史編纂書か，『旧満州檔』『宮中檔』のような檔案か，『金瓶梅』『擇繙聊斎志異』のような中国文学の翻訳であって，独自の文学作品というのは極めて稀である。しかしここに『ニシャン・サマン伝』は珍らしくもツングース民族の風土の中から生まれた固有の作品であって，これによってツングース系民族の風習，シャマン教の実情，装具等，信仰の実体を知ることができる外，宗教学，民俗学上においても貴重な資料を提供している。

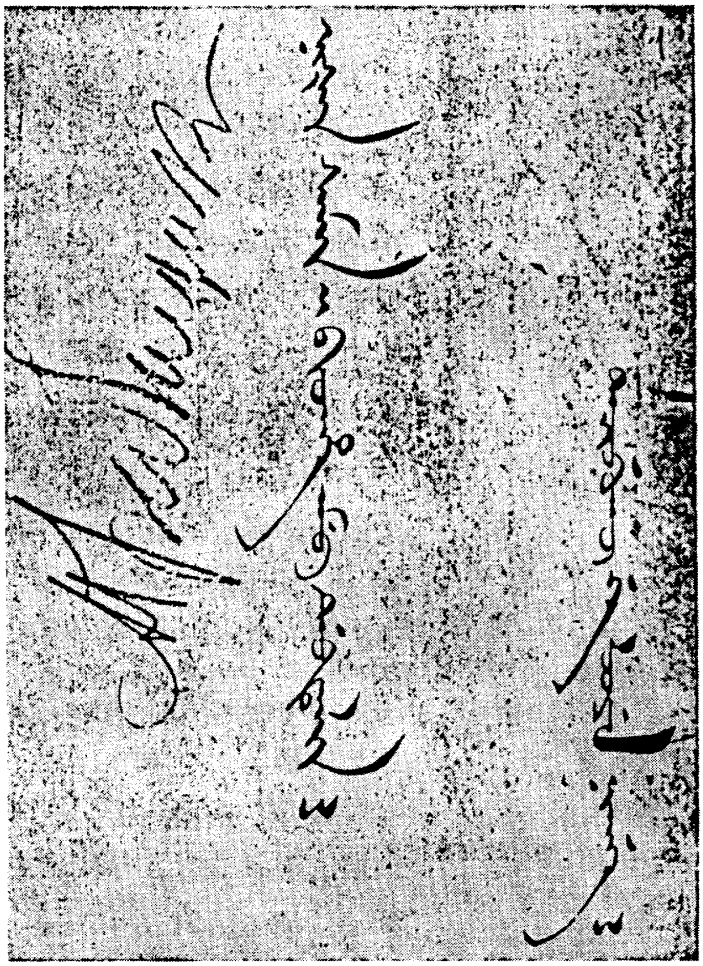
第1図　Volkova. Nishan' samani bithe. Moscow. 1961. 第9頁.

満文『ニシャン・サマン伝』は現在ソ連科学院アジア民族研究所東方学檔案室に三種の書が収蔵されている外，中国社会科学院民族研究所に一本，西ドイツに数種の本が収蔵されている。

ソ連収蔵の三本はいずれもソ連ウラジボストーク東方研究所の満州語および文学講師であった A. V. Gre-

benschchikov (1880～1941) が中国東北地区の民間で入手したものである。ウラジボストーク東方学院中国語満州語科を卒業した彼は，1907年，P. P. Schmidt からニシャン・サマン伝の物語のあることを聞き，1908年，この物語の写本を発見するため，中国東北地方に旅行した。

第一手稿本は，1908年，Grebenschchikov がチチハル東北の Meiser 村の Nendeshana Jinkeri という満族人から入手した。この『チチハル手稿本』は23頁，17×8.3 cm，毎頁5行で，粗末な漢紙に墨書した錢装本である。Volkova 氏によれば，この『チチハル手稿本』は完全ではなく，バルドゥ・バヤンの子の訃報をもち，狩猟からいそぎ帰宅する召使の話に始まり，最後はニシャン・サマンとモンゴルダイ・ナクチュとの問答に終っている。この本は現在ソ連科学院アジア民族研究所 Институт народов Азии の東方学檔案，宗75巻1号41に所蔵されている。

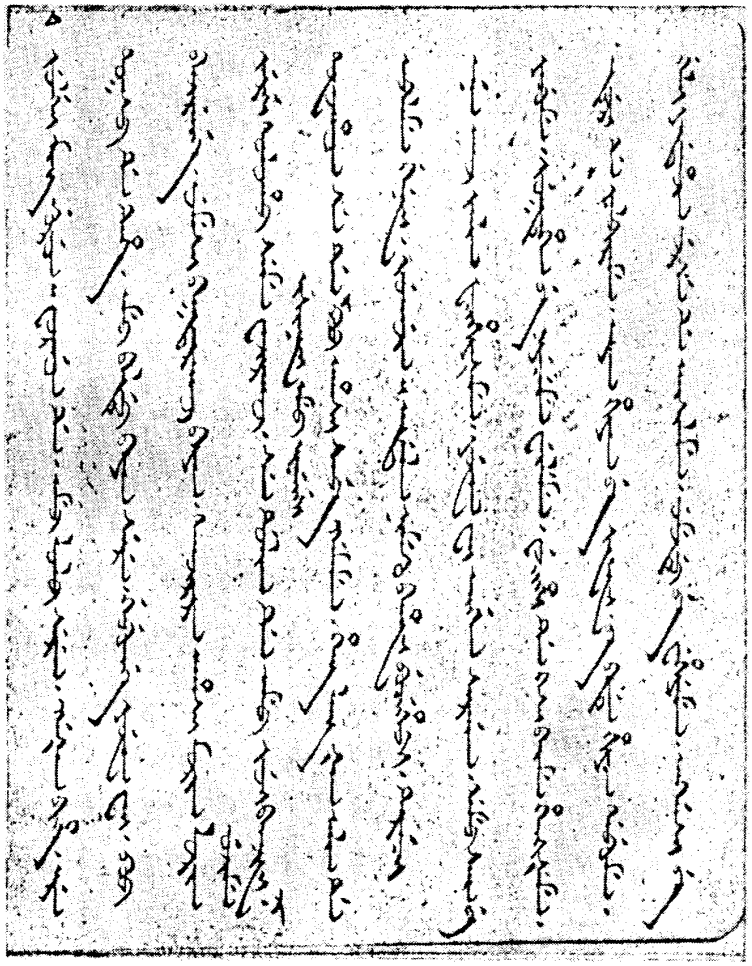


第2図　Volkova. 前掲書，第15頁.

第二手稿本は，1909年，Grebenschchikov が愛琿附近の Desinge という満族人から入手した。この『アイグン手稿本』は Volkova によれば，全2巻50頁，24×21.5 cm，毎頁12行で，粗末な漢紙に毛筆で書かれている。しかしこの本を実際に閲覧された池上二良教授によれば，「その第一巻（“emu debtelin”）は各頁12行，表紙・裏表紙とも含めて18丁，第二巻（“jai debtelin”）は各頁11行，全11丁であり，それぞれの表紙には満州字で “yasen sama i bithe”（第一巻），および “nits'an sama i bithe”

（第二巻）とある」とのことである（津曲敏郎「Nišan Saman i Bithe における満州語詩の分析」『北海道大学文学部紀要』28：1，1980，注3）。この第二手稿本中には，シャマンの装束を着けたニシャン・サマンの画像が毛筆で描かれており，画像の左右に満州字で Nits'an Sama と記されている〔第1図〕。Volkova 本の Nishan' samani bithe の第9頁に掲出の画像がそれである。第二手稿本も第一手稿本と同様に始めと終りの部分を欠いでいるが，ニシャン・サマンが黄泉の国を旅するさまは，比較的詳細に描写されているそうである。現在ソ連科学院アジア民族研究所の手稿本の A 124 に所蔵されている。

第三手稿本は，1913年，Grebenschchikov がウラジボストークの東方大学満州語教師 Dekdengge から贈られたものである。第三手稿本の最後に，Dekdengge 氏から G 氏への献呈の辞が記されているが，それによれば D 氏は自分の記憶にもとづいて記述したらしく「ニシャン・サマン伝を見たのは随分むかしの事で，すっかり忘れてしまった。残缺の個所も多い。知っている事を想い出して書いたが，もし他所で完全な善本が得られたら補写すべきである」と記している。第三手稿本の表紙の裏には，中央に満州字で Nišan saman i bithe, emu debtelin と書名が記され，その右方に tacibukū ge looye ningge（教授グ老爺のもの），左方にロシア文字で Grebenschchikov と記されているので献呈本であることがわかる〔第2図〕。



第3図　Volkova. 前掲書，第16頁

第三手稿本は，V 氏によれば，93頁，21.8×7 cm，毎頁12行の洋装本である

が，津曲敏郎氏によれば，本の大きさは 21.8×17 cm であろうという。この書は現在，ソ連科学院アジア民族研究所東方学檔案の宗75巻1号1に保存されている。

中国社会科学院民族研究所所蔵の手稿本は残本で，この内13頁が缺げているが，基本的には第三手稿本と大同小異だそうである。

Grebenschchikov は 1941年，折りからの戦乱の中で病により死亡したが，その後，1961年，ロシアの満州語研究者 Maria Petrovna Volkova 女史が，Grebenschchikov に献じられた第三手稿本を整理，翻訳しモスクワで出版した。この書は序文，第三手稿本の全文の影印，そのロシア文字転写，ロシア語訳，訳注等から成っている。ニシャン・サマン伝については夙に 1935 年，Sergei M. Shirokogoroff が Psychomental Complex of the Tungus. London において紹介しており，世界の満族文化研究者の注目するところであったが，ここにおいて人々はそのほぼ全容を目にすることを得，しかもこの書に第三手稿本の全文の影印とロシア文字転写の附されていたことは，研究者に多大の便宜を与えることとなり，これに基き各国で翻訳が公刊され始めた。それはまず現 Seoul 大学教授成百仁氏が『満州 Sya man 神歌：Nišan saman i bithe』として1974年，韓国語に翻訳されたのにはじまり，1977 年には Durrant 氏と Nowak 女史との共訳注による英訳書がシアトルで，また同年台北で故宮博物院の荘吉発氏の中国語訳注本が出版され，G. Stary 氏のイタリア語訳も同年出版された。中華人民共和国においても，趙展氏によるニシャン・サマン伝の紹介や，賀霊，斉車山氏による紹介および翻訳が公刊されており，各国で各種の研究書も公にされている。この度のわたくしの日本語訳も Volkova 本に見える影印の満文第三手稿本によった〔第 3 図〕。

先に記した Dekdengge の献呈辞の中で「(本書には) 残缺の個所も多く，もし他所で完全な善本が得られたら補写すべきである」と述べているように，第三手稿本も物語の完全な伝本ではない。先年 Köln 大学 Ostasiatisches Seminar の M. Gimm 教授からいただいた手紙によれば，ニシャン・サマン伝の満文新テキストの出版を準備中であるとのことである。また中国においても，これまでの手稿本の欠を補完する新伝本が発見されたと聞いている。これらの新発見資料の早急の公刊と，ニシャン・サマン伝をめぐる諸研究の進展を期待してやまない。(1986年11月26日)。

凡　　例

1．現在までに公刊されたニシャン・サマン伝のテキスト，訳書，研究書等は次のとおりである。〔　〕内は略号を示す。

(1) Волкова, М. П. Нишань самани ьитхэ: предание о нишанской шаманке, Москва, 1961.〔V〕

(2) 成百仁『満州 syaman 神歌：Nišan saman i bithe』明知大学出版部 Seoul, 1974.〔S〕

(3) Margaret Nowak and Stephen Durrant. The tale of the Nišan Shamaness : A Manchu Folk Epic, Seattle, 1977.〔D〕

(4) 荘吉発「尼山薩蛮伝：Nišan saman i bithe〕，文史哲出版社，台北，1977.〔C〕

(5) Giovanni Stary. Viaggio nell' Oltretomba di una sciamana mancese, Florence, 1977. 未見。

(6) Wolfgang Seuberlich. "Die mandschurische Sage von der Nisan-Schamanin", Fernöstliche Kultur: Wolf Haenish zugeeignet von seinem Marburger Studienkreis, hrsg. u. bearb. von Helga Wormit, Marburg, 1975. 未見。

(7) 賀霊「《尼山薩満》一份研究薩満教的重要文献一附訳文」『新疆師範大学学報』1985年2期，141—142。

(8) 斉車山「尼山薩満　根拠一九六一年　莫斯科版本訳」『新疆師範大学学報』1985年2期，143—160。

(9) 津曲敏郎「Nišan Saman i Bithe における満州語詩の分析」『北海道大学文学部紀要』28：1，1980年1月，63—104.〔TS〕

(10) 趙展「評介『尼山薩蛮伝』」『満族文学研究』1982：2，134—140。

(11) Denis Sinor. "Some remarks on Manchu poetry", *Studies in South, East, and Central Asia: Presented as a memorial volume to the late Professor Raghu Vira by members of the PIAC*, New Delhi, 1968, pp. 105-114.

2．訳文の左に示す数字は Volkova 女史の Nishan' samani bithe に示される Dekdengge 手稿本の頁数である。

3．テキストのローマ字転写は，メーレンドルフの方法に拠った。

4．Dekdengge の話す満州語には訛りがあったらしく，従って第三手稿本には『清文鑑』などに見える正統的満州語とは違った綴字や意味不明の語が現われる。ローマ字転写のさい，それらは正統的綴字になおさねばならないが，そのローマ字転写には研究者により見解の相違が見られる。本書では各研究者の見解は注記せず，各語の後に〔　〕に入れて示した。たとえば jalbirame〔V, S : jalbarime〕は，原文が jalbirame と読みとれる語に対し，Volkova 氏，成百仁氏が jalbarime と転写されたことを示す。
〔V〕は Volkova 氏，〔S〕は成百仁氏，〔D〕は Durrant 氏，〔C〕は荘吉発氏。〔TS〕は津曲敏郎氏，〔K〕は河内の解釈を示す。

訳　　注

NIŠAN SAMAN I BITHE
ニシヤン サマン　　傳

1. julgei ming gurun i forgon de, emu lolo sere, gašan bihe,
むかし 明　国　の 時代 に, 一つの ロロ という 村が　あった。

ere tokso de tehe, emu baldu bayan[1] sere, gebungge
この 村荘 に 住んでいた 1人の バルドゥ バヤン という 高名な

yuwan wai,[2] boo banjirengge, umesi baktarakū bayan, takūrara
員　外は 家 計　　はなはだ 豊かな　物持で, 召使いの

ahasi morin lorin jergi toloho seme wajirakū, se dulin
奴僕 馬　騾馬 などは 数えようとて 数えきれなかった。 中年

de emu jui banjifi, ujime tofohon se de isinafi emu inenggi boo
にして1子を もうけ, 養って 15　歳 に なった ある日,　家

ahasi sabe gamame, heng lang šan alin de abalame genefi, jugūn
僕　等を 伴い　ヘン ラン シャン 山 に 狩に　行き, 途

i andala nimeku bahafi bucehebi, tereci enen akū jalin
の 半ばに 病を　得て　死亡した。 それからは 子孫　がない ので

facihiyašame, yuwan wai eigen sargan, damu sain be yabume,
憂いなやみ, 員　外 夫　妻は　ただひたすら 善　を おこない,

juktehen be niyeceme weileme, fucihi de kesi baime hengkišeme,
寺観　を 補修　造営し, 仏　に 恩沢を 請うて 叩頭し,

enduri de jalbirame〔V, S : jalbarime〕, ayan hiyan[3] be jafafi, ba bade
神　に　祈りを捧げ 芸　香　を 奉り, 所 所に

hiyan dabume, geli yadahūn urse de aisilame, umudu be wehiyeme,
香を 焚き,　また 貧しい 人々 を 助け,　孤児　を みとり

anggasi be
やもめ を

2. aitubume, sain be yabufi iletulere jakade, dergi abka
救い,　善　を おこなうこと 顕著であった ので,　上　天が

gosifi susai se de arkan seme emu jui ujifi, ambula
憐れみ 50　歳にして ようやく　1人の 子をもうけた。　大いに

urgunjeme gebu be uthai susai sede banjiha, sergudai fiyanggo
喜こび 名 を すなわち 50 歳で 生れた セルグダイ フィヤンゴ

〔V, S : fiyanggū[4)]〕 seme gebulefi, tana nicuke 〔K : nicuhe〕 gese
と 名付けた。東珠や 真珠 のように

jilame, yasa ci hokoburakū ujime, sunja sede isinafi tuwaci, ere
慈しみ, 目 を 離さず 養い 5 歳に なって みれば, この

jui sure sektun〔V : sektu〕, gisun getuken ojoro jakade, uthai
子は 聰明 利口で, 言葉も はっきり していた ので, そこで

sefu solifi, boode bithe tacibume, geli coohai erdemu gabtan
教師を 招き, 家で 書を 学ばせ, また 武 術, 射弓,

niyamniyan be urebufi, šun biya geri fari gabtara sirdan
騎射 を 習わせた。 日 月は 茫 茫として 射 矢

i gese hodon〔V, S : hūdun〕 ofi, tofohon sede isinafi, gaitai emu
のように 早く 過ぎ, 15 歳に なった。突然 ある

inenggi sergudai fiyanggo ini ama eme be acafi, baime
日, セルグダイ フィヤンゴは 彼の 父 母 に あい, 願って

hendume, mini taciha gabtan niyamniyan be cendeme, emu mudan
言うには,「私が 学んだ 射弓 騎射 を 試しに, 1 度

abalame tuciki sembi, ama i
狩に 出たいと思います。 父上が

3. gūnin de antaka be sarakū〔V: sarkū〕, sehede ama hendume,
心 中 どう思われるか わかりません」 というと 父は 言った。

sini dergide emu ahūn bihe, tofohon sede heng lang
「お前の 上に もう1人 兄が いた。 15 歳の時 ヘン ラン

šan alin de abalame genefi beye dubehebi, bi gūnici
シャン 山 に 狩に 行き 死んでしまった。 私は思うのだが

genere be nakareo sere jakade, sergudai fiyanggo
行くの を やめないか」と 言った ので, セルグダイ フィヤンゴは

hendume niyalma jalan de, haha seme banjifi, ai bade yaburakū,
言った 「人の 世 に 男 として 生れ, 何 処にも 行かず,

enteheme boo be tuwakiyame bimbio, bucere banjire gemu
永久に 家 を 守って いましょうか。 死 生は みな

meimeni gajime jihe hesebun ci tucinderakū
各自が 持って 来た 天命 から 逃れ出られるものではありません」

serede, yuwan wai arga akū alime gaifi, hendume aika abalame
というと, 員 外は 仕方 なく 承知 して 言った, 「もし 狩に

tuciki seci, ahalji bahalji[5] sebe gamame gene,
出たい というのなら アハルジ バハルジ 等を つれて 行きなさい。

ume inenggi goidare〔S: goidara〕 jebkešeme yabu,
決して 日を久しく 過してはなりません。 気をつけて 行きなさい。

hahilame mari mini tatabure gūnin be, si ume
いそいで もどりなさい。私の 心 配 に お前は 決して

urgedere seme afabure be, sergudai fiyanggo
そむいてはなりません」と いいつけたのを, セルグダイ フィヤンゴは

je seme jabufi, uthai ahalji sebe
「はい」 と 答え, すぐさま アハルジ 等を

4. hūlafi afabume hendume, muse cimari abalame tucimbi, niyalma,
呼び 命じて 言った。「私達は 明朝 狩に 出かける。人,

morin, enggemu jergi be teksile, coohai agūra beri niru jergi be
馬, 鞍 等 を ととのえ, 武 器 弓 箭 など を

belhe, cacari boo be, sejen de tebu, aculan〔S : anculan〕[6] giyahūn
備え, 幕 舎 を 車 に 積みこめ。 鷹,

kuri indahūn be saikan i ulebufi belhe, sere jakade
虎紋の 犬 に よく 餌を与えて 準備しなさい」と言ったので

ahalji bahalji se je seme uthai hahilame belheme
アハルジ バハルジ等は「はい」と答え, すぐさま いそいで 仕度に

genehe, jai inenggi sergudai fiyanggo ama eme de fakcara
行った。 翌 日 セルグダイ フィヤンゴは 父 母 に 別れの

doroi hengkilefi uthai sure〔V, S: suru〕[7] morin de yalufi ahalji
礼で 叩頭し ただちに 白 馬 に 乗り アハルジ

sebe dahalabufi aculan〔S : anculan〕 giyahūn be almime〔S:alamime〕,
等を 従え 鷹 を 背にし

kuri indahūn be kutuleme, geren ahasi se jebele dashūwan beri
虎紋 犬 を 牽き, 多くの 奴僕 等が 箭袋, 弓袋, 弓

niru unume, juleri amala faidan meyen banjibume, sejen morin
矢を 背に負い, 前 後に 隊 伍を 組み, 車 馬が

dahanduhai yaburengge, umesi kumungge wenjeshūn〔V, S:
踵を接しながら 行くさまは, はなはだ 豪華

wenjehun〕, tokso sakda asigan〔S : asihan〕 urse gemu
殷盛にして, 村荘の 老 幼の 人々で ことごとく

uce tucime tuwara
門を 出て 見

5. akūngge akū, gemu angga cibsime maktame saišambi,
ないものは なく，皆 くちぐちに 感嘆し 称賛し 賞めそやした。

geren aba i urse morin be dabkiyame 〔V, S : dabkime〕
すべて 狩 の 人々は 馬 に 鞭うち

yaburengge, hūdun hahi ofi dartai endende 〔S: andande〕 gebungge
行くこと 早 く，たちまちにして 名高い

aba abalara alin de isinafi, uthai cacari maikan be cafi
狩 の 山 に 到着した。すぐさま 幕舎 帳房 を 張り，

nere feteme mucen tebufi, budai faksi be buda arabume werifi,
煮炊きの穴を掘り，鍋を かけ，料理 人 を 料理 作りに 残し，

sergudai fiyanggo geren ahasi sabe gaime, ahalji
セルグダイ フィヤンゴは 諸 奴僕 等を ひきつれ， アハルジ

bahalji sade afabume aba saraki, alin šurdeme
バハルジ 等に 命じ 「巻狩りの勢子の列を散開させよう，山を囲んで

abalaki sefi uthai aba sarafi, gabtarangge
えものを狩ろう」といい，すぐさま 勢子を 展開させた。 射手は

gabtambi, geli gidalarangge gidalambi, giyahūn maktame
矢を射かけ， また 槍手は 槍をくり出し， 鷹を 放ち

indahūn be cekuleme〔V : cukuleme〕 amcabumbi, gurgu gasha jergi
犬を けしかけ 追わせ， 獣 や 鳥 など

be gabtaha tome gemu baharakū ningge akū, jing ni amtangga
を 射る 毎に みな えものを得ない 者は なく，正 に 首尾よく

i abalame yaburede, gaitai sergudai fiyanggo beye gubci
狩をしているとき，突然 セルグダイ フィヤンゴは 身体が すっかり

geceme, gaitai geli wenjeme, uju
こごえ， たちまちにして また 高熱を発し， 頭は

6. liyelihun 〔V, S : liyeliyehun〕 ofi, nimekulere jakade, uthai
混濁 し 病いの身となったので， すぐさま

ahalji bahalji sebe hūlafi, musei aba faidan be hahilame
アハルジ バハルジ 等を 呼び，「我等の 巻狩の 陣立て を 急いで

bargiya mini beye icakū serede golofi hahilame
収めなさい。私の 体が 具合がわるい」 というと 驚ろいて いそぎ

aba be bargiyafi cacari de isinjifi beliyen 〔D: belin[8)]〕 age be
巻狩 を しまい 幕舎 に 帰って来て ベリン アゲ を

dosimbufi tuwa dabufi, tuwa de fiyakūme nei tucibuki seci,
入れ 火を 焚き， 火 に あて 汗を 出させよう としたが，

wenjere de taran waliyame beye alime muterakū, ojoro jakade
高熱の ため 汗が 吹き出て 身体が 耐え られない の で

fiyakūme ojorakū ofi, ahasi sabe alin moo be sacifi,
火にあたらせる こともできない。奴僕 等に 山の 木 を 切らせ,

kiyoo weilefi belin age be kiyoo de dedubufi, ahasi sa
轎を 造り ベリン アゲ を 轎 に 寝かせ 奴僕 等が

halanjame tukiyeme booi baru deyere gese yaburede,
かわるがわる 担ぎ 家 に向かって 飛ぶ ように 帰って行くとき,

sergudai fiyanggo songgome hendume mini beye nimeku
セルグダイ フィヤンゴは 泣いて 言った, 「自分自身で 病

arbun be tuwaci ujen, ainahai boode isiname mutere ni
状 を 見ると 重篤だ。どうして 家に 帰りつくことが できようか。

bodoci muterakū oho, ahalji bahalji suweni ahūn
それは 覚つか なく なった。アハルジ, バハルジよ。お前たち 兄

deo i dolo emke we inu
弟 の 中の 1人 誰 でも

7. okini, hahilame boode genefi mini ama eme de emu mejige benefi,
よい, いそいで 家に 行って 私の 父 母 に しらせを 送り,

mini gisun be ama eme de getuken i fonde〔S: funde〕ularao,
私の 言葉 を 父 母 に はっきり と 代りに 伝えてくれ。

mini beye ama eme i jilame ujiha baili de karulame
私 自身 父 母 の 慈しみ 養った 恩 に 報いることが

mutehekū, sakdasi〔K : sakdasa〕i tanggū sede isinaha erinde
できなくなった。 老人等 が 百 歳に 到った 時に

hiyoošulame sinagalame fudeki seme majige gūniha bihe, we
孝養を尽し 喪に服して 送りたい と いささか 思っては いた。誰が

saha abka gukubure jakade gūnihakū mini erin jalgan
知ろう, 天が 亡ぼす ことには 思い及ばなかった。私の 時 が

isinjire jakade, dere acame muterakū oho, yasa
やって来た ので, 顔を あわせることが できなく なった。まのあたり

tuwahai aldasi bucembi, mini ama eme be ume fulu dababume
に見ながら 中途で 倒れる。私の 父 母 に 決して あまり 過度に

nasame usara se, sakda beyebe ujirengge oyonggo,
悲しみ 嘆かぬよう言ってくれ。老いた 身を 養うことこそ 肝要,

ere gemu gajime jihe hesebun i toktobuha ton kai,
これは ことごとく もって 生れ来た 天命 の 定めた 計 ぞ。

nasara songgoro be erilereo seme mini fonde〔S:funde〕
悲しみ 泣くの は 時を按じてなさるように と 私の 代りに

getuken i
はっきり と

8. ulambureo seme hendufi, geli gisureki seci angga juwame
伝えてくれ」と 言い, また 話したそうに したが 口を 開けること

muterakū, jain〔V, S : jayan〕jafabufi gisureme banjinarakū oho,
ができず, おとがいは こわばり 言葉に ならなく なった。

sencike〔V, S : sencehe〕tukiyeceme yasa hadanaha〔S : hadahai〕[9)]
下顎が あがり 目は すわり

ergen yadafi, ahalji bahalji geren ahasi se kiyoo be
呼吸は 弱まった。アハルジ バハルジと 諸 奴僕 等は 轎 を

šurdeme ukufi songgoro jilgan de, alin holo gemu uradumbi〔S :
めぐって 取囲み 泣 声 で 山 谷は みな こだました。

urandambi〕[10)], amala ahalji songgoro be nakafi geren baru
しばしの後 アハルジは 泣くの を やめ 人々 に向って

hendume, belin age emgeri bucehe, songgoro de inu weijubume
言った。「ベリン アゲは すでに 死なれた。泣いた とて 亦 蘇らせること

muterakū oho, giran be gaime jurarengge〔S : jurarangge〕oyonggo
はできない。 遺体 を 取り 出発することこそ 肝要。

bahalji sini beye geren be gaime belin age i giran be
バハルジよ そなたは 自分で 人々 を つれ ベリン アゲ の 遺体 を

saikan hoššome〔V : hošotolome〕[11)] gajime elheo〔S : elhei〕jio,
よくよく 包み 伴ない ゆるゆると 来なさい。

mini beye juwan moringga niyalma be gamame neneme julesi
私 自身は 10人の 騎馬の 者ども を 連れ 先に 前

genefi musei yuwan wai mafa de mejige
行し われらが 員 外 大人 に しらせを

9. alanafi boode belin age be, fudere jaka sabe belheme geneki,
告げて 家に ベリン アゲ を 野辺送りする 物 等を 備えに 行こう」

seme alafi ahalji geren be gaime morin yalume, deyere gese
と 告げて アハルジは 人々 を つれ 馬に 乗り, 飛ぶ ように

feksime boo baru generengge hahi ofi, dartai andande boo i duka
疾駆し 家に 向い 行くこと 早く して, たちまち 家 の 門の

bade isinafi, morin ci ebufi boode dosifi, yuwan wai mafa de
所に 着いた。 馬 から 下り 家に 入り, 員 外 大人 に

niyakūrafi, damu den jilgan surume〔V, S : sureme〕 songgombi,
ひざまづき，ただ 高い 声で 叫び 泣くばかり。

umai seme gisurerakū, yuwan wai mafa facihiyašame, tome
全 く 言葉にならない。員 外 大人は いらだち

〔V, S : toome〕 hendume ere aha si ainaha,
罵り 言う 「こやつめ，お前は どうしたというのか。

abalame genefi ainu songgome amasi jihe, eici sini
狩に 行き 何故 泣いて もどって 来た。事によると お前の

belin age ai oyonggo baita de simbe julesi takūraha
ベリン アゲが 何か 緊要の 用があって お前を 先に 遣ったのだな。

ainu songgome gisurerakū seme siran i fonjire de
何故 泣いて 言わないのか」 と たたみかけて たずねる と

ahalji jaburakū kemuni songgoro de yuwan wai mafa
アハルジは 答えず なお 泣くので 員 外 大人は

fancafi, tome〔toome〕 hendume
憤りいらだち， 罵って 言う。

10. ere yeken akū〔S: yekerakū〕 aha ainu alarakū damu
「この ろくでなし め， 何故 わけも言わずに ただ

songgombi, songgoro de baita wajimbio sehe manggi, songgoro
泣くのか。泣い て 事が 済むのか」と言う と， 泣くの

be nakafi emgeri hengkilefi, hendume belin age jugūn de
を 止め 一度 叩頭して 言った。「ベリン アゲは 途中 で

nimeme beye dubehe, mini beye neneme mejige benjime
病にかかり 世を 終えられました。私 自身 先に しらせを もって

jihe, yuwan wai utulihe akū ai jaka dubehe seme
参りました」 員 外は 合点が ゆかず，何 事が 終ったのか と

fonjirede, ahalji jabume waka, belin age
尋ねると，アハルジは 答えた。「そうではありません。ベリン アゲが

beye akū oho sere gisun be yuwan wai emgeri donjire
亡くなられました」と 言う 言葉 を 員 外は 1度 聞く

jakade uju ninggude akjan guwehe gese haji jui
と 頭 上に 雷が 鳴り響いた かのように 「愛しい 子よ」

seme surefi uthai oncohon tuheke de mama ekšeme
と 大声で叫び，そのまま 仰向けに 倒れた 時，老夫人が あたふたと

jifi ahalji de fonjire jakade alame, belin
出て来て アハルジ に 尋ねた ので （アハルジは）言った。「ベリン

age bucehe seme mejige alanjiha be donjifi,
アゲが 亡くなられました との しらせを 申し上げたの を 聞き,

tuttu farame tuheke sehe manggi, mama
このように 気を失なって 倒れられました」と 言うと, 老夫人は

donjifi yasa julergide
聞いて 目の 前に

11. talkiyan gilmarjiha〔V, S : gilmarjaha〕gese menerefi, eme i
稲妻が 光った ように 目がくらみ,「母 の

jui seme emgeri hūlafi inu farame tob seme mafa i oilo
子よ」 と ひと声 呼んで また 失神し 正しく 大人 の 上に

hetu tuheke be takūrara urse golofi tukiyeme ilibufi,
横ざまに 倒れたの を 使いの 者共は 驚いて 引きおこし立たせると,

teni aituhabi, boo i gubci ere mejige be donjifi
やっと 息を吹きかえした。家 の 者はみな この しらせ を 聞き

gemu songgocombi, ere songgoro jilgan de toksoi i urse gemu
皆 共々に泣いた。この 泣 声 で 村荘 の 人々は 皆

isandufi gari miyari〔D : gar miyar〕seme ging〔V, S: jing〕
一斉に集まり オイオイ と ひたすら

songgocoro namšan,[12] bahalji songgome dosinjifi yuwan
共に泣いた。そのすぐ後で, バハルジは 泣きながら 進み入り, 員

wai mafa de hengkilefi alame, belin age giran be gajime
外 大人 に 叩頭し 告げた。「ベリン アゲの 遺体 を おつれして

isinjiha yuwan wai eigen sargan toksoi urse sasa, dukai tule
参りました」員 外 夫 妻は 村荘の人々と共に, 門 外に

belin age i giran be okdome boode dosimbufi, besergen de
ベリン アゲ の 遺体 を 迎え 家に 入れ, 牀 に

sindafi, geren niyalma ukulefi〔D: ukufi〕songgoro jilgan de abka
安置した。衆 人は 取り囲み 泣 声 で 天

na gemu durgembi emu jergi songgoho
地は ことごとく 震動した。1 度 泣いた

12. manggi, geren niyalma tafulame hendume, bayan agu suweni mafa
後に, 衆 人は 諫めて 言った。「長者 様 あなた方 大人

mama ainu utu〔V, S: uttu〕songgombi, emgeri bucehe
老嫗が 何故 かように 泣いておられるのですか。1度 死んだら

songgoho seme weijure doro bio, giyan i giran de baitalara
泣いた とて 生き返る 道理がありますか。宜しく 遺体 に 用いる

hobo jergi jake be belheci acambi, sehe manggi yuwan wai
棺 等の 物 を 備えねばなりません」 と言う と 員 外

eigen sargan teni nakafi hendume suweni gisun
夫 妻は やっと 泣くのを止めて言った。「そなた等の 言葉も

umesi giyan, udu tuttu bicibe yargiyan i gūnin
まことに もっともだ。いくら こんなに していても 本当に 心

dolo alime muterakū korsombi, mini haji sure
中は 耐えられぬ 程 悲しみもだえている。 私の 愛する 聰明な

jui emgeri bucehe kai, geli aibe hairambi, te geli ya
子は すでに 死んでしまったのだ。又 何が 惜しかろう。今 また 誰が

emu juse de banjikini seme ten hethe werimbi, sefi
1人の 子 に 暮らすように といって 房基 家産を 残そうか」と言い

ahalji bahalji sebe hūlafi afabume ere aha damu angga be
アハルジ バハルジ 等を 呼んで 命じた。「こいつめ, ただ 口 を

juwafi songgombi, sini belin age de nadan waliyara jaka,
開け 泣いている。お前の ベリン アゲ に 七つの 祭りの 品物,

yarure
引導の

13. morin, ku namun jergi be gemu belhe, ume hairara
馬, 倉 庫 等 を 皆 備えよ。惜しんではいけない」

sefi ahalji bahalji se songgoro be nakafi afabuha
と言った。アハルジ バハルジ 等は 泣くの を 止め, 命ぜられた

gisun be dahame, belin age de yarure ilha boco alha akta
言葉 に 従い, ベリン アゲ に 引導の 花 色 花模様の 駿

morin juwan, tuwai boco jerde akta morin juwan, aisin boco sirga
馬 10頭, 火 色の 紅 駿 馬 10頭, 金 色の 銀合

akta morin juwan, hūdun keri〔D: keire〕[13] akta morin juwan, šayan
駿 馬 10頭, 駿足の 棗騮 駿 馬 10頭, 白

〔šanyan〕 boco suru akta morin juwan, behei boco sahaliyan akta
色の 白 駿 馬 10頭, 墨 色の 黒 駿

morin juwan, gemu belhehe sehede yuwan wai afabume,
馬 10頭を ことごとく 備えました と言うと, 員 外は 命じた,

gūsin morin de buktelii〔S : buktulin〕, gecuhuri〔V : gecuheri〕
「30頭の 馬 に 皮袋, 蟒緞

etuku jergi be unubu, funcehe morin de jebele dashūwan jergi
衣 等 を 背負わせよ。余った 馬 に 箭袋 弓袋 等

be alamibu, sure〔S : suru〕šeyen fulan akta morin de fulgiyan
を 背負わせよ。 白い 雪白の 青 騮 馬 に 赤い

enggemu kadargan〔S : kandarhan〕 tuhebume aisin bolgiha
鞍, 緹胸（房のついた胸飾り）を 吊りさげさせ,

〔S: bulgiyaha〕 hadala jergi be yongkiyan
鍍金の 轡 等 を 遺漏なきよう

14. tohofi yaru, geli adun i da sabe hūlafi, alame ihan adunci
つけて 引け」また 牧畜 頭 等を 呼んで 告げた。「牛の 群から

juwan gaju, honin adun ci ninju gaju,
10頭を 取って来なさい。 羊の 群 から 60頭を 取って来なさい。

ulgiyan adun ci nadanju gaju, ere be gemu wafi
豚の 群 から 70頭を取って来なさい。 これ を すべて 殺し

belhe sehede, adun da, ahalji se je sefi
準備しなさい」というと, 牧群 頭, アハルジ 等は, はい と言っ

jabumbime teisu teisu belheneme genehe, yuwan wai geli takūrara
て答えつつ それ ぞれ 備えに 行った。員 外は また 召使いの

sargan jui aranju šaranju sebe hūlafi alame suweni juwe
娘 アランジュ シャランジュ 等を 呼んで 告げた。「そなたら 2

niyalma toksoi geren aisilara hehesi sebe gaime maise efen
人は 村荘の 大勢の 手つだいの 女達 を つれて 麥粉の 餑餑

nadanju deren〔V, S:dere〕, caise〔K:caisi〕[14] efen ninju deren, mudan
70 卓, 餲枝 餑餑 60 卓, ねじり

efen susai deren〔V, S : dere〕, mere mudan dehi deren〔dere〕,
餑餑 50 卓, 蕎麥 ねじり餑餑 40 卓,

arki juwan malu, niongniyaha juwan juru, niyehe orin juru,
焼酎 10 瓶, 鵞鳥 10 つがい, 鴨 20 つがい,

coko gūsin juru, sunja hacin tubihe guye[15] emte juwe deren
鶏 30 つがい, 5 種類の 果 菓 各一を 2

〔dere〕, ere jergi be te
卓, これ 等 を 今

15. uthai hahilame belheme yungkiyabu〔V, S : yongkiyabu〕 tookabuci
すぐ 急いで 漏れなく 備えなさい。 遅れたら

suwembe gemu tantambi, sehede, geren gemu je
そなた等を ことごとく 打ち懲らそうぞ」というと 人々は 皆 はい

seme jabufi, meni meni fakcame belheneme genehe, goidaha
と 答え, 各 自 ちりぢりに別れて 支度に 行った。しばらく

akū geren niyalma gari miyari〔D : gar miyar〕seme meyen
して 人 々は わいわい いいながら 1隊1隊

meyen tukiyefi hūwa de jalu faidame sindaha, barun
ごとに 肩に擔ぎ 庭 に あふれるように 並べて 置いた。

〔S : baran[16]〕be tuwaci hada i gese den sabumbi, udu hacin yali
その様子 を 見ると 峯 の ように 高く 見えた。 数 種の 肉が

alin i gese muhaliyahabi, arki mederi gese tebume sindahabi,
山 の ように 積まれた。 酒は 海の ように 注いで 置かれた。

tubihe efen deren sirandume faidahabi ku namun[17], aisin
果物と 餑餑は 卓を連ねて つぎつぎに 並べられた。倉 庫には, 金

menggun hoošan jergi fiheme jalubume〔K : jalumbume〕faidafi
銀 紙銭 等を 詰めこみ 満たして 並べ

geren urse arki sisalafi〔S : sisafi〕songgombi, dalbaci yuwan wai
諸 人は 酒を そそいで 泣いた。 傍から 員 外が

songgome hendume
泣いて 言った。

ama i age ara,
父 の 子 アラ,

susai sede ara,
50 歳で アラ,

ujihe ningge ara,
生んだ 者 アラ,

sergudai fiyanggo ara,
セルグダイ フィヤンゴ アラ,

bi simbe sabuhade ara,
わたしが そなたを 見た時 アラ,

ambula urgunjehe ara,
こよなく 驚喜したぞ, アラ,

16. ere utala morin ara,
これ 程の 馬 アラ,

ihan honin adun ara,
牛, 羊の 群 アラ,

we salire ara,
誰が 受け継ぐのか アラ,

age i ambalinggo〔V, S : ambalinggū〕ara,
そなた の 偉丈夫と アラ,

sure genggiyen ara,
賢さ 清さを　　アラ,

ambula akdahabihe ara,
こよなく たのみとしていたぞ, アラ,

yalure akta ara,
騎乘の 駿馬は アラ,

ya age yalure ara,
どの 子が 乘るのやら アラ,

aha nehu ara,
奴僕と 婢女が アラ,

bihe seme ara,
いた とて アラ,

ya ejin〔V, S : ejen〕takūrara ara,
どの　　主人が 使うのやら アラ,

aculan〔S : anculan〕giyahūn ara,
　　隼と　　鷹は　　アラ,

bihe seme ara,
いた とて アラ,

ya jui alire ara,
どの 子が うけるのやら アラ,

kuri indahūn ara,
黎　狗が　　アラ,

bihe seme ara,
いた とて アラ,

ya juse kutulere ara,
どの 子等が 牽くのやら アラ,

seme soksime songgoro de eme geli songgome hendume
と　嗚咽し　泣くの　に 母親 も亦 泣きつつ　言った。

eme i sure age ara,
母　の 賢い子 よ, アラ,

eme mini ara,
母なる 私の アラ,

enen juse ara,
嗣　子の アラ,

jalin sain be ara,
為に 善　を アラ,

yabume baifi ara,
おこない 請い求めて アラ,

hūturi baime ara,
福を 願って アラ,

susai sede ara,
50 歳の時に アラ,

banjiha sure ara,
生れた 賢い アラ,

genggiyen age ara,
清い 子よ アラ,

gala dacun ara,
手は 敏捷で アラ,

gabsihiyan age ara,
すばしこい 子よ アラ,

17. giru saikan ara,
骨格も 美くしく アラ,

gicihiyan〔gincihiyan〕 age ara,
みめ麗わしき子 よ アラ,

bithe hūlara ara,
書を 読む アラ,

jilgan haihūngga ara,
声も 柔和な アラ,

eme sure age ara,
母の 賢き 子よ アラ,

te ya jui de ara,
今 どの 子 に アラ,

nikeme banjimbi ara,
頼って 生きようぞ アラ,

ahasi de gosingga ara,
奴僕等 にも 思いやり深き アラ,

ambulingga〔V, S : ambalinggū〕 age ara,
体躯堂々の子 よ アラ,

giru muru ara,
骨格 容姿 アラ,

hocohūn〔V, S : hocikon〕 age ara,
かぐわしき 子よ アラ,

fiyan banin ara,
容色 すがたは アラ,

pan an[18] i gese ara,
潘 安 の ように アラ,

saikan age ara,
みめよき 子よ アラ,

eme giya〔S : giyai〕de ara,
母が 街 に アラ,

šodome yabuci ara,
遊行しに 行けば アラ,

giyahūn adali ara,
鷹の ように アラ,

eme jilgan be ara,
母の 声 を アラ,

donjime baire ara,
聞き 求めようぞ, アラ,

holo de yabuci ara,
山谷 に 行けば アラ,

honggo〔S : honggon〕jilgan ara,
鈴の 音 アラ,

eniye hocohūn〔S : hocikon〕age ara,
母の 容姿のよい 子よ アラ,

eniye bi te ara,
母の 私は 今 アラ,

ya emu age be ara,
どの 1人の 子 を アラ,

tuwame bimbi ara,
見守り いますのか アラ,

gosime tembi ara,
慈しみ いますのか アラ,

oncohon tuheci obinggi〔S : obonggi〕tucime, umušhun〔V, S : umušuhun〕tuheci silenggi eyeme, oforo niyaki be oton de
仰向けに 倒れれば 泡を 吹き, うつむけに 倒れれば 唾沫が 流れ, 鼻 汁 を 盆 に

18. waliyame, yasai muke be yala[19] bira de eyebume songgoro de, dukai
吐き出し, 涙 を ヤラ 河 に 流し 泣く とき, 門の

bade emu dara kumcuku〔V, S : kumcuhun〕bucere hamika dara
所に 1人の 腰が 曲がり（今にも）死に そうな 腰を

mehume yabure sakda mafa jifi hūlame hendume,
かがめて 歩く 老 翁が 来て 呼んで 言う。

deyangku deyangku duka tuwakiyara
デヤンク デヤンク 門を 守る

deyangku deyangku aguta sa donji
デヤンク デヤンク 老兄 等よ 聞き給え。

deyangku deyangku sini ejin〔V, S : ejen〕de
デヤンク デヤンク あなたの 主人 に

deyangku deyangku genefi alarareo〔S, TS. alanareo〕
デヤンク デヤンク 行って 告げてくれ。

deyangku deyangku duka tulergide
デヤンク デヤンク 門の 外に

deyangku deyangku bucere sakda
デヤンク デヤンク 死にかけの 老人が

deyangku deyangku jihebi sereo
デヤンク デヤンク 来ている と言ってくれ。

deyangku deyangku majige acaki sereo
デヤンク デヤンク ちょっと 会いたい と言ってくれ。

deyangku deyangku seme jihese〔S : jihe se〕
デヤンク デヤンク と 言いに来たと言い給え。

deyangku deyangku majige gūnin
デヤンク デヤンク 微 意を示そう為に

deyangku deyangku hoošan deijimbi,
デヤンク デヤンク 紙銭を 焚きましょう。

deyangku deyangku
デヤンク デヤンク

seme baire de duka tuwakiyaha niyalma dosifi baldu bayan de
と 請う 時, 門 番の 者が 入って バルドゥ バヤン に

ulara jakade, yuwan wai hendume
伝えた ので, 員 外は 言った。

19. absi jilaka hūdun dosimbu belin age de waliyaha
「何と 可哀想な。いそいで 招じ入れなさい。ベリン アゲ に 祭った

alin i gese yali efen be jekini, mederi gese arki
山 の ような 肉と 餑餑 を お食べになるように, 海の ような 焼酎

be omikini sehe manggi duka tuwakiyaha niyalma
を お飲みになるように」と 言ったので，門 番の 人は

sujume genefi tere sakda be hūlame dosimbufi, tere sakda dosime
走って 行って その 老人 を 呼び入れさせた。 その 老人が 入って

jidere de utala waliyara yali, efen arki jergi be tuwarakū,
来る 時，これ程の 祭りの 肉 餑餑，焼酎 等 には見向きもせず，

šuwe duleme genefi belin age i hobo hanci ilifi, gala hobo
真直に 通り過ぎ 行って ベリン アゲ の 棺 近く 立ち，手で 棺

be sujame bethe fekuceme den jilgan i songgome hendume
を 支え 足を 踏みあげ 高い 声 で 泣いて 言った。

age i haji ara koro
親愛なそなた アラ コロ

absi udu〔TS. uttu〕ara koro,
何と こんなに アラ コロ

jalgan foholon ara koro,
命の 短いことか。アラ コロ

sure banjiha ara koro,
聰明に 生れた アラ コロ

seme donjiha ara koro
と 聞いた アラ コロ

sungken[20] aha bi ara koro
髪に霜を得た 奴才 私も アラ コロ

urgunjehe bihe ara koro
喜こんで いました。アラ コロ

mergen age be ara koro
智慧ある 子 を アラ コロ

20. ujihe seme ara koro,
養った と アラ コロ

algin donjifi ara koro
評判を 聞き アラ コロ

mentuhun aha bi ara koro
愚か 者の 私は アラ コロ

erehe bihe ara koro
望んでおりました。アラ コロ

erdemu bisire ara koro
才徳を そなえた アラ コロ

age be banjiha ara koro
そなた が 成長した アラ コロ

seme donjifi ara koro
と 聞き，アラ コロ

ehelinggo〔S : ehelinggu〕aha bi ara koro
庸劣 奴才の 私は アラ コロ

akdaha bihe ara koro
頼みとして おりました。アラ コロ

fengšen bisire ara koro
幸福 である アラ コロ

age be donjifi ara koro
そなたの事 を 聞き， アラ コロ

ferguwehe bihe ara koro
驚喜して おりました。アラ コロ

age absi buceheni ara koro
そなたは どうして 死んだのですか。アラ コロ

galai falanggo〔S : falanggū〕dume fancame songgome
手の ひらを 打ち鳴らし いらだち恨み 泣き

fekuceme bucetei songgoro be dalbai niyalmasa gemu
足を踏みしめ，いまにも死ぬほど 泣くの に 傍の 人びとは 皆

yasai muke eyebumbi, yuwan wai sabufi šar seme gosime tuwafi,
涙 を 流した。 員 外は 見て 惻然 と 憐み 見て，

ini beyede etuhe suje sijihiyan〔S : sijigiyan〕be sufi tere
自分の 身に 着けた 繻子の 上衣 を 脱ぎ その

sakdade buhe manggi tere sakda etuku be alime gaifi beyede nerefi
老人に 与え ると， その 老人は 着物 を 受け 取り 身に 羽織り

hobo ujui bade
棺の 頭 部に

21. tob seme ilifi, emu jergi boobe šurdeme tuwafi ambarame emgeri
真直 に 立ち，ひとめぐり 家を まわって 見て 大きく 1度

sejilefi emu jergi jabcafi hendume bayan agu si yasa
嘆息し，1 度 怪しみ咎めて 言う， 「長者 様， 貴方は 目で

tuwahai sini jui sergudai fiyanggo be turibufi
見ながら 貴方の 子 セルグダイ フィヤンゴ を（あの世へ） 落し遣る

unggimbio yaka bade mangga saman bici baime gajifi
のですか。 どこ かに 類稀な サマンが いれば 頼んで 連れて来て

belin age be aitubureo, serede yuwan wai hendume aibide
ベリン アゲ を 救わせませんか」と言うと 員 外は 言った。「何処に

sain saman bi meni ere toksode emu ilan duin
良い サマンがいますか。 私達の この 村荘に 1人や 3人 4人の

saman bi, gemu buda holtome jetere saman sa, damu
サマンはいます。皆 飯を だまして 食べる サマン共です。 ただ

majige arki, emu coko, heni efen jergi dobonggo〔V, S : dobon〕
少しの 焼酎, 1羽の 鶏, 僅かな 餑餑 などの 供物を

dobome ira buda belheme wecere saman sa kai, niyalma be
供え, 黍 飯を そなえ 祭る サマン 達 です。人 を

weijubure sere anggala ini beye hono ya inenggi ai erinde
蘇生させる という どころか, 彼 自ら ですら 何 日 何 時

bucere be gemu sarkū, bairengge sakda mafa aika bade
死ぬか を 全く 知らないのです。どうか 老 翁よ, もしも

sara mangga
知っている 秀れた

22. saman bici majige jorime alame bureo sehede, mafa
サマンがおられれば, ちょっと 指教し 告げて 下さい」と言うと 翁は

hendume bayan agu si adarame sarkū nio, ere baci
言った。「長者 様, あなたは どうして 知らないのですか。此処から

goro akū nisihai birai dalin de tehe, teteke〔S:tenteke〕[21] gebungge
遠く ない ニシハイ 河の 岸 に 住む こんなに 有名な

hehe saman bi, ere saman erdemu amba bucehe niyalma
女 サマンがいます。この サマンは 才徳が 偉大で 死 人

be aitubume mutembi, tere be ainu baihanarakū
を 救うことが できます。この人 に どうして行って頼まないのですか。

tere saman jici, sergudai fiyanggo sere anggala uthai
この サマンが 来れば, セルグダイ フィヤンゴ という よりも すなわち

juwan sergudai sehe seme inu weijubume mutembi kai, suwe
10人の セルグダイ だ とて, 亦 蘇生させられましょう ぞ。あなた方

hūdun baihaname gene, seme gisurefi elhe nuhan i yabume
早く 探しにお行きなさい」と 言って ゆっくり と 歩み去り,

amba duka be tucime genefi sunja boco tugi de tefi
大 門 を 出て 行き 5 色の 雲 に 乗り,

mukdehebe duka tuwakiyara niyalma sabufi hahilame boode
高く昇って行くのを 門の 番 人は 見て 急いで 家に

dosifi yuwan wai de alaha manggi, baldu bayan urgunjeme
入り 員 外 に 告げる と, バルドゥ バヤンは 喜んで

hendume urunakū enduri jifi,
言った。「きっと 神が 来られて,

23. minde jorime taciburengge seme uthai untuhun baru
わたしに 教えて 下さったのだ」 と言い, ただちに 空に 向って

hengkilefi ekšeme bethe sefere〔S : seberi〕 sarala〔S : sarla〕 akta
叩頭し 急いで 脚に 白銀色の蹄をもった 貉皮（灰色）の 騸

morin yalufi, booi aha be dahalabufi, feksime goidahakū nisihai
馬に 乗り, 家 奴 を 従え, 疾駆し いくばくもなく ニシハイ

birai[22] dalin de isinafi tuwaci dergi dubede emu ajige hetu boo
河の 岸 に 着いて 見れば, 東の 端に 1つの 小さな 側 房が

bi, baldu bayan tuwaci tulergide emu se asihan gehe
ある。バルドゥ バヤンが 見ると 外で 1人の 年 少の

〔S : gege〕 jurhun〔S : jerguwen〕[23] de oboho etuku be lakiyame
婦人が 横木 に 洗った 衣類 を 吊るし掛け

walgiyambi, baldu bayan hanci genefi baime fonjime
乾している。バルドゥ バヤンは 近づいて 行き 尋ね 問うた。

gehe nišan saman i boo ya bade tehebi, minde alame
「婦人よ, ニシャン サマン の 家は 何 処に ありますか。私に 言って

bureo serede tere hehe injeršeme〔S : ijaršame〕 jorime
下さい」と言った時, その 女性は にっこり笑い指示して

wargi dubede tehebi sere gisun de yuwan wai morin
「西の 端に 住んでいます」と言った 言葉 に 員 外は 馬に

yalume feksime isinafi tuwaci hūwa i dolo emu niyalma dambagu
乗り いそいで 行って 見ると 屋敷 の 内に 1人の 人が たばこを

omime ilihabi, ebuho sabuho〔S:ebuhu sabuhū〕 morin ci ebufi
吸って 立っていた。 あたふたと 馬 から 下り

24. hanci genefi baime sain agu wako〔S : wakao〕, nišan saman
近づいて 行き 請うた。「老先生 ではありませんか。ニシャン サマン

i boo yala ya emke inu, bairengge tondo i
の 家は 果して どのような 1軒 なのですか。どうか 正しく

alame bureo serede tere niyalma hendume si ainu
告げて 下さい」 と言うと, その 人は 言った。「そなたは 何故

gelehe goloho durun i ekšembi, yuwan wai hendume
恐れ おののいた 様子 で 急いでいなさるのか」。員外は 言った。

minde oyonggo ekšere baita bifi age de fonjime dacilambi,
「私に さし迫った いそぎの 用があって，先生 に たずね 問うのです。

gosici minde alame bureo, tere niyalma uthai hendume
お願いですから 私に 告げて 下さい」。その 人は すぐさま 言った。

si teni dergide fonjiha etuku silgiyafi walgiyara tere
「貴方が たった今 東で たずねた 衣服を 洗って 乾していた その

hehe uthai saman inu, agu tašarabume holtobuha
女性が つまりその サマン です。 尊兄は 嘘をつかれて だまされた

kai, tere saman be baire de saikan i gingguleme
のだね。その サマン に 請う 時，よくよく かしこみ敬って

baisu, gūwa saman de duibuleci ojorakū ere saman
請いなさい。別の サマン と 比較は 出来ません。 この サマンは

umesi dahabume kundulere de amuran sefi, baldu
よくよく へりくだった 敬虔さ が好きなのです」と言った。バルドゥ

bayan tere niyalma de baniha bufi morin yalufi dahūme
バヤンは その 人 に 礼を して 馬に 乗り 再び

25. feksime dergi dubede isinjifi, morin ci ebufi boode dosifi, tuwaci
疾駆して 東の 端に 着いた。馬 から 下り 家に 入り，見ると

julergi nahan de emu funiyehe šaraka sakda mama tehebi, jun i
南 炕 に 1人の 髪の 真白な 老 婆が いた。 竈 の

angga bade emu se asigan〔S : asihan〕 hehe dambagu be
焚口の 所には 1人の 年 若い 女が 煙草 を

gocime ilihabi, yuwan wai gūnici ere nahan de tehe
引き寄せ 立っていた。員 外は 思った。「この 炕 に坐っている

sakda mama jiduji saman dere seme nada〔D : nade〕
老 婆が きっと サマン なのだろう」 と 地面に

niyakūrafi baire de sakda mama hendume bi saman waka
跪き 請う と 老 婆は 言った。「私は サマンではありません。

agu si tašarabuhabi, jun bade ilihangge mini urun,
尊兄，あなたは 間違っています。竈の 所に 立っているのが 私の 嫁で

saman inu serede baldu bayan uthai ilifi ere
サマン なのです」と言うと，バルドゥ バヤンは すぐさま 立って この

gehe〔S : gege〕 de niyakūrafi baime hendume, saman gehe〔S:gege〕
女性 に 跪き 請うて 言った。「サマン 女様，

amba algin algikabi gebu gūtubume tucikebi,
名 声は 揚がっており，御令名は かたじけなくも 現れ出ております。

orin saman i oilori, dehi saman deleri[24] turgunde,
20人の サマン の 浮薄さと，40人の サマンの 軽佻さの 故に（お頼み

bairengge han julhun[25] be
に来ました)。どうか 帝の 卦 を

26. tuwabume jorimbureo〔S : joribureo〕 seme baime jihe
示し 指教していただきたい と思い，お願いに 来ました。

gehe jobombi seme ainara šar seme gosifi algin be
貴女が 苦しんだ とて どうなりましょうぞ。惻然として 憐み 令名 を

gaime bureo serede tere hehe injeršeme〔S : ijaršame〕 hendume
得て 下さい」と言うと その 女は にっこり笑って 言った。

bayan agu be holtorakū, mini beye ice tacifi
「尊 兄 を 欺いたのではありません。わたくし 自身 最近 学んだ

goidaha akū de han julhun tuwarengge tondo akū
ばかりなので 帝の 卦を 占うことが 公平に いかないのでは

ayoo ume baita be tookabure gūwa erdemungge saman
あるまいか。決して 事 を 誤つことのない 他の 有徳の サマン

sabe baifi erdeken i tuwabuna ume
等に 頼んで 早く 行って見てもらいなさい。 決して

heoledere serede baldu bayan yasai muke eyebume,
怠ってはいけません」と言うと バルドゥ バヤンは 涙を 流し，

hengkišeme dahūn dabtan i baire jakade, saman hendume
つづけざまに叩頭し，繰返し 重ねて 請うた ので，サマンは 言った。

tuktan jihebe dahame, emu mudan tuwambureo gūwa
「初めて 来られたの だから 1 度だけ 見てあげましょう。 他の

niyalma oho bici ainaha seme tuwarakū bihe sefi
人 なら ば 決して 見てあげませんでしたのに」 と言い

dere yasa obufi〔V, S:obofi〕, hiyan dere faidafi, muheliyen tonio be
顔と 眼を 洗い， 香 案を 並べ， 圓い 碁石 を

muke de maktafi, falan dulin de mulan
水 に 投入れ，土間の なかば に 椅子

27. teku be sindafi saman beye ice〔V, S:ici〕 galai yemcen〔V, S:imcin〕
座席 を 置き サマン 自ら 右 手に 男手鼓

be jafafi hashū galai hailan moo gisun be halhifi〔V, S : halgifi〕
を 取り 左 手に 楡 木の ばち を 捲きつけ，

teku de teme yemcen be torgime geyeme[26] baime deribuhe
座席 に 座し 男手鼓 を まわし 打ちたたき 請い願い 始めた。

hocohūn〔S: hocikon〕 jilgan hobage[27] be hūlame den jilgan deyangku
すずしい 声で ホバゲ を 唱し 高い 声で デヤンク

be dahinjime〔V, S:dahinjeme〕 yayame〔yayadame〕[28] baifi weceku
を 繰返し 誦念し 請い願い, 神霊

be beyede singgebufi baldu bayan nade niyakūrafi donjimbi,
を 身体に 乗り移らせた。バルドゥ バヤンは 地に 跪き 聞いた。

nišan saman yayame〔yayadame〕 deribuhe, jorime yayaha
ニシャン サマンは 誦念し はじめた。 示し

〔yayadaha〕 gisun,
誦念した 言葉。

eikule yekule ere baldu halai
エイクレ エクレ この バルドゥ 姓の

eikule yekule muduri aniyangga
エイクレ エクレ 竜 年生れの

eikule yekule haha si donji
エイクレ エクレ 男, 貴方 聞き給え。

eikule yekule han be tuwabume
エイクレ エクレ 帝を して 謁見させるために

eikule yekule jihe age
エイクレ エクレ 来た 尊兄。

eikule yekule getuken donji
エイクレ エクレ はっきりと 聞き給え。

eikule yekule wake seci
エイクレ エクレ そうではないと 思えば

eikule yekule wake sebai〔S : se bai〕
エイクレ エクレ そうではないと 言えばよい。

28. eikule yekule holo seci
エイクレ エクレ 違っていると 思えば

eikule yekule holo sebai〔S : se bai〕
エイクレ エクレ 違っていると 言えばよい。

eikule yekule holo saman holtombi
エイクレ エクレ にせの サマンは 欺く。

eikule yekule suwende alarao
エイクレ エクレ そなた等に 告げてもらえまいか。

eikule yekule orin sunja sede
エイクレ エクレ 25 歳で,

eikule yekule emu haha jui
エイクレ エクレ 1人の 男 子を

eikule yekule ujihe bihe
エイクレ エクレ 養って いた。

eikule yekule tofohon se ofi
エイクレ エクレ 15 歳 になり,

eikule yekule heng lang šan
エイクレ エクレ ヘン ラン シャン

eikule yekule alin de
エイクレ エクレ 山 に

eikule yekule abalame genefi
エイクレ エクレ 狩に 行った。

eikule yekule tere alin de
エイクレ エクレ その 山 で

eikule yekule kumuru[29] hutu
エイクレ エクレ クムル 鬼が

eikule yekule sini jui i
エイクレ エクレ そなたの 子 の

eikule yekule fainggo〔V, S : fayangga〕be
エイクレ エクレ 魂 を

eikule yekule jafame jefi
エイクレ エクレ 取って 食べた。

eikule yekule ini beye
エイクレ エクレ 彼の 身体は

eikule yekule nimeku bahafi
エイクレ エクレ 病を 得て

eikule yekule bucehe bi
エイクレ エクレ 死んで しまった。

eikule yekule tereci juse
エイクレ エクレ それから 子を

eikule yekule ujihe akūbi
エイクレ エクレ 育てたことも なかったが,

eikule yekule susai sede
エイクレ エクレ 50 歳で

29. eikule yekule emu haha jui
エイクレ エクレ 1人の 男の 子が

eikule yekule sabufi ujihebi
エイクレ エクレ 現われて 養った。

eikule yekule susai sede
エイクレ エクレ 50 歳で

eikule yekule banjiha ofi
エイクレ エクレ 生れた ので

eikule yekule gebube sergudai
エイクレ エクレ 名前を セルグダイ

eikule yekule fiyanggo sembi
エイクレ エクレ フィヤンゴ と呼ぶ

eikule yekule seme gebulehebi
エイクレ エクレ と 名づけた。

eikule yekule mergen gebu mukdehebi
エイクレ エクレ 賢い 名は 揚り,

eikule yekule amba gebu tucikebi
エイクレ エクレ 偉大な 名が 現われ出た。

eikule yekule tofohon se ofi
エイクレ エクレ 15 歳に なり,

eikule yekule julergi alin de
エイクレ エクレ 南の 山 で

eikule yekule gurgu be ambula
エイクレ エクレ 獣 を たくさん

eikule yekule waha turgunde
エイクレ エクレ 殺した ため,

eikule yekule ilmun han donjifi
エイクレ エクレ 閻羅 王が 聞き,

eikule yekule hutu be takūrafi
エイクレ エクレ 鬼 を つかわし,

eikule yekule fainggo〔fayangga〕be jafafi
エイクレ エクレ 魂 を 奪い取り,

eikule yekule gamaha bi kai
エイクレ エクレ 持ち去った のだ。

eikule yekule weijubure de mangga
エイクレ エクレ 蘇生 は むづかしく,

eikule yekule aitubure de jobombi
エイクレ エクレ 助け出すの に 苦労する。

eikule yekule inu seci inu
エイクレ エクレ 是（そのとおり）ならば 是（そのとおり）

se
と言いなさい。

30. eikule yekule waka seci
エイクレ エクレ そうではないと思えば,

waka se
そうではないと言いなさい。

eikule yekule
エイクレ エクレ。

baldu bayan hengkišeme hendume wecen[30] 〔V, S : weceku〕 i
バルドゥ バヤンは 続けて叩頭し 言った。「 神霊 の

alahangge, geren julen i jorihangge gemu inu
告げたことも, もろもろの 誦詞 の 指示したことも, 皆 その通りです」

sehe manggi saman emge 〔V, S : emke〕 hiyan be jafafi
と言った ので, サマンは ひとつかみの 香 を 取り

weshume 〔V : wesihume〕 gelabufi yemcen gisun jergi
捧げ 正気にかえり 男手鼓 ばち（鼓推） 等

be bargiyafi, baldu bayan dabtan i nade niyakūrafi songgome
を 収めた。 バルドゥ バヤンは 重ねて 地に 跪き 泣いて

hendume saman gehe i gosime tuwahangge gemu yargiyan
言った。「サマン 女様 の 憐れみ 見立てられたことは 皆 事実と

acanambi acanara be dahame gosici beyebe jobobume
符合しています。符合して おりますので どうか御苦労をおかけしますが,

mini fosihūn 〔V, S : fusihūn〕 boode mini jui i indahūn gese ergen
私の 陋 屋で 私の 子 の 犬の ような 生命

be aitubureo, ergen baha erinde enduri wecen be onggoroo
を 助けて下さい。生命を 得た 時に 神 祭 を 忘れる

dorombio 〔K : doro bio〕, mini beye baiha be dahame basan
道理がありましょうか。 私 自身が お願い した ので

〔basa〕 be cashūlara dorombio〔K:doro bio〕 sehe manggi nišan
礼物 の 義理を欠く 道理がありましようぞ」と言ったので, ニシャン

saman hendume sini boode ere jui i emu inenggi banjiha
サマンは 言った。「そなたの 家に この 子 と 同じ 日に 生れた

indahūn bi,
犬がいますね。

31. geli ilan aniya amila coko, misun jergi amba muru bodoci
又 3 歳の 雄 雞, 味噌 等は 大 概 想うに

bidere seme fonjirede baldu bayan hendume
あるのでしょうね」 と たずねると バルドゥ バヤンは 言った。

bisirengge yargiyan tuwahangge tondo kai,
「あると言われた物は真実（にあり), お見立ては 正しい。

ferguwecuke enduri saman kai, te bi bahaci amba ahūra〔V, S:
奇しき 神の サマン ぞ。今 私は 出来たら 大きな

agūra〕be aššabumbi ujen ahūri〔S:agūra〕be unume gamaki
器物 を 動かそう。 重い 道具 を 背負い 持って行こう

sembi, bairengge mini jui i ajigen ergen be aitubureo serede
と思う。どうか 私の 子 の 幼ない 命 を 助け給え」 と言うと

nišan saman injeme hendume ajige eberi saman
ニシャン サマンは 笑って 言った。 「小さな 力足りぬ サマンが

ainaha icihiyame mutebure mekelen〔V, S:mekele〕bade ulin
どうして 処理し 得ましょう。 無駄な 事に 財宝や

menggun fayambi tusa akū bade turgin〔V, S:turigen〕jiha
銀を 費しますね。 益 なき 事に 工 銭を

wajimbi, gūwa mutere saman sabe baisu, bi serengge
はたきますね。別の 有能な サマン 等に 尋ねなされ。わたしという者は

teni taciha saman tesu bahara unde, ice
やっと 学んだ サマンで, 本当には まだ会得してはおりません。 初

taciha saman ilban〔V : alban〕[31] bahara unde, aibe sambi
学の サマンで, 官許を 得ておりません。何を 知っており

serede baldu bayan niyakūrafi
ましようぞ」と言うと, バルドゥ バヤンは 跪き,

32. hengkileme gosiholome songgome bairengge saman gehe mini jui i
叩頭し 慟哭し 泣き 請うた。「サマン 女様, 私の 子 の

ergen be aitubuci aisin menggun alha gecuhuri〔S:gecuheri〕
命 を 助けて下されば 金 銀 花模様の 蟒緞,

akta morin ihan honin jergi adun be dulin dendeme bufi baili
駿 馬, 牛, 羊 等の 牧群 を 半分 分けて さしあげ, 恩

de karulambi, sehe, manggi nišan saman arga akū hendume
に 報います」と言った ので, ニシャン サマンは 仕方 なく 言った。

bayan agu ilii〔V, S : ili〕bi bai emu mudan geneme tuwaki,
「長者様お起きなさい。私は ただ 1 度だけ 行って 見ましょう。

jabšabuci inu ume urgunjere ufarabuci inu ume
僥倖でうまくいって も 喜こんではいけません。失敗して も

usahara〔S : ushara〕, ere jergi gisun be getuken i
怨んでは いけません。これ らの 言葉 を はっきりと聞きとどけ

donjihao sehede, baldu bayan ambula urgunjeme
てくれましたか」と言うと，バルドゥ バヤンは 大いに よろこび，

ubaliyame ilifi aname dambagu tebume baniha
身をひるがえして 立ち上り，つづいて タバコを 煙管につめ， 感謝を

bume wajifi uce tucime morin yalufi boo baru jime
捧げ 完り， 門を 出， 馬に 乗り 家に 向い 帰って来ると，

uthai ahalji bahalji sebe hūlafi hahilame giyoo〔V, S:kiyoo〕
ただちに アハルジ バハルジ 等を 呼び 「急いで 轎，

sejen morin jergi be belhefi saman be ganareo serede
車， 馬 等 を 備え， サマン を 行ってお連れ申せ」と言うと，

33. uthai gemu teksin yungkiyan〔V : yongkiyan〕 tohome
すぐさま 皆 きちんと すっかり 馬の支度を

belhefi ahalji bahalji se geren be gaime saman be okdonome
ととのえ，アハルジ バハルジ 等は 衆 を 率い サマン を 迎えに

yabume goidahakū nisihai birai dalin i nišan saman i
行き， いくばくもなく ニシハイ 河の 岸 の ニシャン サマン の

boode isinafi saman be acafi elhe baifi weceku guise jergi be
家に 到った。サマン に 会って 請安し， 神霊や 櫃 等 を

ilan sejen de dendeme tebufi saman giyoo〔V, S : kiyoo〕 de
三台の 車 に 分けて 乗せ サマンは 轎 に

tefi jakūn asihata tukiyeme deyere gese dartai andande yuwan
坐し 八人の 少年等が 擔ぎ 飛ぶが 如く たちまちにして 員

wai i boode isinjifi baldu bayan okdome dosimbufi weceku
外 の 屋敷に 着いた。バルドゥ バヤンは 迎え 入れ 神霊，

guisebe amba nahan i dulin de faidafi dere yasa obofi hiyan dabufi
櫃等を 大 炕 の 中程 に 並べ， 顔と 目を 洗い 香を 焚き，

ilan jergi hengkilefi amala saman dere obofi buda belhefi jeme
3 度 叩頭した 後， サマンは 顔を 洗い 飯を そなえ 食べ

wajifi usihin fungku i dere mafulafi〔S:mabulafi〕 yemcen〔V, S:imcin〕
終り，濡れた 手巾 で 顔を 拭い 男手鼓を

belhefi weceku de yayame〔V, S: yayadame〕 baime yemcen〔imcin〕
備え， 神霊 に 誦念し 請うて 男手鼓

tungken forire de emu gašan de bisire ilan duin
太鼓を 打ち鳴らすと，同じ 村落 に いる 3 4人の

34. saman sa dahalame yemcen〔imcin〕 forici gemu
サマン 等が 後について 男太鼓を 打ち鳴らすけれども 皆

mudande acanarakū ojoro jakade, nišan saman hendume ere
調子が 合わない ので，ニシャン サマンは 言った。「この

gese teksin akū oci absi hanilambi〔D:hanalambi〕[32]
ように きちんと そろわないの なら どうして 冥府に行けようぞ」

serede yuwan wai jabume meni emu tokso de yargiyan
というと 員 外は 答えて「わたくし共の 同じ 村荘 には 本当に

mutere niyalma akū oho, saman gehe〔S : gege〕de daci
能ある 人が いなくなった。サマン 女様 に もとから

dahalaha da jari[33] bici alafi ganabuki
付き隨った 頭の 助禱巫が あれば， 告げて つれに行かせましょう」

sehede, nišan saman hendume meni gašan de tehe nadanju
というと，ニシャン サマンは 言った。「私共の 村荘 に 住む 70

sede ujihe emu nara fiyanggo〔V, S : fiyanggū〕bihebi, ere
歳の時に 養った 1人の ナラ フィヤンゴが います。この

niyalma cingkai dahalara be dahame yemcen geyen[34]
人は 非常に（早くから）付き隨っている ので 男太鼓 拍子器

jergide gemu ureshūn gese ere niyalma jici yargiyan
等に 皆 習熟している ようです。この 人が 来たら 本当に

i joborakū šašun[35] ijishūn bihe, serede yuwan wai uthai
心配なく 斉全と 順調 でした」 というと 員 外は すぐさま

ahalji be emu morin yalubume emu morin be kutuleme
アハルジ を 1匹の 馬に 乗せ 1匹の 馬 を ひき

hahilame nara fiyanggo〔fiyanggū〕age be ganabuha, goidahakū
いそいで ナラ フィヤンゴ アゲ を 連れにやった。程なく

35. isinjifi morin ci ebufi baldu bayan okdome boode dosime
着き 馬 から 下りた。バルドゥ バヤンが 迎えに 家に 入り

jiderede nišan saman sabufi injeme hendume weceku de hūsun
来る時，ニシャン サマンは 見て 笑って 言った。「神霊 に 力を

bure wesihun agu jiheo endu[36]〔S : enduri〕de aisilara
与える 貴 兄が 来たのか。 神 に 助けを与える

erdemu age nari fiyanggo〔fiyanggū〕deo, jari sini beye
有徳の 老兄，ナリ フィヤンゴ 弟， 助禱巫，あなた 自身

donji, gehe〔S : gege〕 minde saikan i mudan acabume
聞きなさい。 姉の 私に よく 調子を 合わせて

aisila fe ilbaha〔K:ilimbaha〕[37] be dahame yemcen〔imcin〕
助けなさい。 旧くから 慣れて いる ので 男手鼓,

tungken be deo jari de fita akdahabi
太鼓 は 弟, 助禱巫（あなた）を 固く 頼りにしています。

muterakū oci solho〔S : solohi〕[38] ucihin〔V, S: usihin〕burihe,
もしできなけれ ば いたちの 湿った 皮を張った

sokū〔V, S : sukū〕gisen〔V, S : gisun〕ci wesihun i suksaha be
皮 ばち で そなた の 太股 を

tantambi, geyen[34] yayan[39] de acanarakū oci, uli moo i
打ちますぞ。 拍子器を 誦念 に 合わせられ ねば, にわうめの木 の

usihin gisen〔V, S : gisun〕ci ura be tantambi, sehe manggi nari
湿った ばち で しり を 打ちますぞ」と言うと, ナリ

fiyanggo injeme hendume etenggi saman, demungge nišan
フィヤンゴは 笑って 言った。「力豊かな サマン, 異行の ニシャン,

deo bi saha labdu taciburebe baiburakū sefi nahan
弟の私は知っています。多くの 教えは いりませぬ」と言い, 炕

de tefi cai buda dagilame
に 坐し 茶, 飯を 備え

36. wajifi uthai tungken dume acabumbi, tereci nišan saman
終り すぐさま 鼓を 打ち 合わせる。それより ニシャン サマンは

beyede ibagan i etuku, siša hosihan〔V, S : hūsihan〕[40] be etume
身体に 鬼怪 の 服, 腰鈴, 女裙 を 着け

hūwaitafi, uyun cecike yekse be ujude hukšefi šunggayan beye
結び, 九 雀 神帽 を 頭に 載せ, すらりとした 身体を

sunggeljere fodoho i gese, uyaljame yang cun[41] i mudan be
揺れる 柳 のように くねらせ, 陽 春 の 曲 を

alhūdame, amba jilgan i acingiyame〔S : acinggiyame〕, den jilgan
模し, 大 声 で 揺り動き, 高い 声

i dekennime[42], haihūngga mudan hayaljame narhūn jilgan nadame
で 声高に歌い, 柔い 声で 体をくねらせ, 細い 声で

〔S : nandame〕[43] yayame baire gisun,
請い求め 誦念し 祈り求めた 言葉

hoge yage wehei ukdun
ホゲ ヤゲ 石の 洞窟

hoge yage ukcame jidereo
ホゲ ヤゲ 脱け出て 来ませ。

hoge yage hahilame ebunjireo
ホゲ ヤゲ いそぎ 降りて来ませ。

hoge yage
ホゲ ヤゲ

serede saman holhinafi〔S : hūlhidafi〕 fikenci〔D : fiheci[44]〕 fita
というと サマンは 意識もおぼろとなり, 霊気に満ちみつと, 固く

singgeme weceku dosifi gaitai weihe saime yayame alame,
身中に 神霊が 乗り移り, たちまち 歯を 咬みしめ 誦念し 告げた。

hoge yage dalbade iliha
ホゲ ヤゲ 傍に 立った

hoge yage dalaha jari[33]
ホゲ ヤゲ 頭となった 助禱巫。

hoge yage adame iliha
ホゲ ヤゲ 並んで 立った

37. hoge yage amba jari
ホゲ ヤゲ 大 助禱巫。

hoge yage hanci iliha
ホゲ ヤゲ 近くに 立った

hoge yage haihūngga jari
ホゲ ヤゲ 柔和な 助禱巫。

hoge yage šurdeme iliha
ホゲ ヤゲ まわりに 立った

hoge yage sure jari
ホゲ ヤゲ 聰明な 助禱巫。

hoge yage nekeliyen šan be
ホゲ ヤゲ 薄い 耳 を

hoge yage neifi donji
ホゲ ヤゲ 開いて 聞きませ。

hoge yage giramin〔V, S : jiramin〕 šan be
ホゲ ヤゲ 厚い 耳 を

hoge yage gidafi donji
ホゲ ヤゲ 閉じて 聞きませ。

hoge yage amila coko be
ホゲ ヤゲ 雄 雞 を

hoge yage uju bade
ホゲ ヤゲ 頭の 所に

hoge yage hūwaitafi belhe
ホゲ ヤゲ 縛って 備えよ。

hoge yage kuri indahūn be
ホゲ ヤゲ 黎狗（虎の班紋のある犬）を

hoge yage bethe jakade
ホゲ ヤゲ 足の そばに

hoge yage siderefi belhe
ホゲ ヤゲ 繋いで 備えよ。

hoge yage tanggū dalhan〔V, S : dalgan〕
ホゲ ヤゲ 100の 塊の

hoge yage fe misun be
ホゲ ヤゲ 古い 味噌 を

hoge yage dalbade sinda
ホゲ ヤゲ 傍に 置きなさい。

hoge yage tanggū sefere
ホゲ ヤゲ 100 帖の

hoge yage suseri hoošan be
ホゲ ヤゲ 白欒 紙 を

hoge yage hosifi〔hūsifi〕belhe
ホゲ ヤゲ 包んで 備えよ。

hoge yage farhūn bade
ホゲ ヤゲ 闇黒の 処に

hoge yage fainggo〔V, S : fayangga〕be farganambi
ホゲ ヤゲ 魂 を 追い求めて行く。

hoge yage bucehe gurun de
ホゲ ヤゲ 黄泉の 国 へ

hoge yage buhime〔S : buhiyeme〕genembi
ホゲ ヤゲ 疑い迷い 行く。

38. hoge yage ehe bade
ホゲ ヤゲ 悪 所に

hoge yage ergen be ganambi
ホゲ ヤゲ 生命 を 取りに行く。

hoge yage tuheke fainggo〔fayangga〕be
ホゲ ヤゲ 落ちた 魂 を

hoge yage tungiyeme〔S : tunggiyeme〕yombi
ホゲ ヤゲ 拾いに 行く。

hoge yage akdaha jari
ホゲ ヤゲ 信頼する 助禱巫。

hoge yage yarume gamareo
ホゲ ヤゲ 導き 連れて行ってくれ。

hoge yage yargiyan fede
ホゲ ヤゲ 本当に 奮発して

hoge yage aitubume jidere de
ホゲ ヤゲ 助けて帰って 来た ら,

hoge yage oforo šurdeme
ホゲ ヤゲ 鼻の まわりに

hoge yage orin damjin〔V, S : damjan〕[45]
ホゲ ヤゲ 20 荷の

hoge yage muke makta
ホゲ ヤゲ 水を 撒け。

hoge yage dere šurdeme
ホゲ ヤゲ 顔の まわりに

hoge yage dehi hunio
ホゲ ヤゲ 40 桶の

hoge yage muke hungkure〔V, S : hungkere〕
ホゲ ヤゲ 水を かけよ。

hoge yage
ホゲ ヤゲ。

seme alafi uthai fahabume[46] gūwaliyame tuheke manggi jari
と 唱えて すぐさま くらくらと 目がくらみ 倒れた ので, 助禱巫

nari fiyanggo okdome dedubufi siša hosihan〔V, S : hūsihan〕
ナリ フィヤンゴは 近寄り 寝かせ, 鈴, 女裙

jergi be dasatafi coko indahūn be hūwaitafi, misun hoošan
など の 身なりをととのえ, 雞, 犬 を 縛りつけ, 味噌, 紙

jergi be faidame sindafi ini beye saman i adame tefi weceku
等 を 列べ 置き, 自分自身も サマン と 並び 坐し, 神霊を

fideme yarume gamara gisun i nari fiyanggo yemcen〔imcin〕
移し 引導し つれて行く 言葉 で ナリ フィヤンゴは 男手鼓

be jafafi
を 取り,

39. yayame〔yayadame〕deribuhe terei geyen[34]
誦念し　始めた。その 歌調。

cingelji　ingelji　dengjan ayan be
チンゲルジ インゲルジ 灯火,　蠟燭 を

cingelji　ingelji　farhūn obufi
チンゲルジ インゲルジ 暗く　し,

cingelji　ingelji　ineku yamji de
チンゲルジ インゲルジ 今　宵,

cingelji　ingelji　bayara[47] halai
チンゲルジ インゲルジ バヤラ 姓の

cingelji　ingelji　sergudai　fiyanggo
チンゲルジ インゲルジ セルグダイ フィヤンゴの

cingelji　ingelji　fainggo〔V, S : fayangga〕jalin
チンゲルジ インゲルジ　魂の　為に

cingelji　ingelji　hungken[48] de hujufi
チンゲルジ インゲルジ 叩頭し　ひれ伏し,

cingelji　ingelji　farhūn bade
チンゲルジ インゲルジ 暗い　所に

cingelji　ingelji　fainggo be fargambi
チンゲルジ インゲルジ 魂　を 追い求む。

cingelji　ingelji　ehe bade
チンゲルジ インゲルジ 悪い 所に

cingelji　ingelji　ergen be ganambi
チンゲルジ インゲルジ 生命　を 連れに行く。

cingelji　ingelji　tuheke fainggo be
チンゲルジ インゲルジ 落ちた　魂　を

cingelji　ingelji　tunkiyeme〔V, S : tukiyeme〕gajimbi
チンゲルジ インゲルジ　拾いあげ 連れ帰る。

cingelji　ingelji　hutu de hosungge〔S : hūsungge〕
チンゲルジ インゲルジ 鬼　に　力,

cingelji　ingelji　ibagan de icingga
チンゲルジ インゲルジ 妖怪　に 能,

cingelji　ingelji　abkai fejergide
チンゲルジ インゲルジ 天の　下に

cingelji　ingelji　algin bihe
チンゲルジ インゲルジ 令名 あり,

cingelji ingelji geren gurunde
チンゲルジ インゲルジ 諸 国に

cingelji ingelji gebu bihe
チンゲルジ インゲルジ 名声を 得たのだ。

cingelji ingelji
チンゲルジ インゲルジ

sefi nišan
と言った。ニシャン

40. saman coko indahūn be kutulefi misun hoošan be meiherefi geren
サマンは 雞, 犬 を 牽き 味噌, 紙 を 肩にかけ, 諸

weceku šurdeme dahalafi bucehe gurun i baru ilmun han be baime
神霊を まわりに 従え, 黄泉の 国 へ と 閻羅 王 を 探し求め

genere de gurgu wecen〔K:weceku[30]〕feksime, gasha wecen deyeme,
行く 時, 獣の 神霊は 馳け, 鳥の 神霊は 飛び,

meihe jabjan muyaljime〔S : midaljame〕edun su i gese yabume
蛇や 蟒は 蛇行し, 風か 旋風 の 如く 行き,

emu birai cikin dalin de isinjifi šurdeme tuwaci umai
とある 河の 岸 辺 に 着いた。あたりを見わたすと, 何処にも

doore bakū〔S : ba akū〕bime dokūn〔V, S : dogon〕weihu geli
渡し 場は なく, 渡し 船も 見当

saburakū jing ni facihiyašame tuwara namšan cargi bakcin dalin
らなかった。ちょうど 困り切って 見渡したその時, 彼方の 対 岸

de emu niyalma weihu be šurume yabumbi, nišan saman
に ひとりの 人が 独木船 に 棹さし 行く。 ニシャン サマンは

sabufi hūlame hendume,
見て 呼びかけて 言う。

hobage yebage dogūn〔V, S : dogon〕dobure〔V : doobure〕
ホバゲ エバゲ 渡し場の 渡しの

hobage yebage doholo〔V, S : doholon〕age
ホバゲ エバゲ 跛の 尊兄。

hobage yebage donjime gaisu
ホバゲ エバゲ 聞き 取りなさい。

hobage yebage nekeliyen šan be
ホバゲ エバゲ 薄い 耳 を

41. hobage yebage neifi donji
ホバゲ エバゲ 開いて 聞きなさい。

hobage yebage giramin〔V, S : jiramin〕šan be
ホバゲ エバゲ 厚い 耳 を

hobage yebage gidafi donjireo
ホバゲ エバゲ 壓えて 聞いてくれ。

hobage yebage arsun〔S : ersun[49]〕laihi〔V, S : laihūn〕
ホバゲ エバゲ 醜い 無頼者,

hobage yebage ejeme donjireo
ホバゲ エバゲ 心に憶えて 聞いてくれ。

hobage yebage wecen sain de
ホバゲ エバゲ 祭が よい と

hobage yebage wesihun oho
ホバゲ エバゲ 富み 栄え,

hobage yebage jukten sain de
ホバゲ エバゲ 祭が 良い と

hobage yebage julesi oho
ホバゲ エバゲ 前向きに なる。

hobage yebage ejin〔V, S : ejen〕ilifi
ホバゲ エバゲ 主人は 立って

hobage yebage erdemungge oho
ホバゲ エバゲ 徳高き者と なる。

hobage yebage amai dacin〔S : dancan[50]〕de
ホバゲ エバゲ 父親の 実家 に

hobage yebage acame genembi
ホバゲ エバゲ 会いに 行く。

hobage yebage eniyei dancin〔S : dancan〕de
ホバゲ エバゲ 母親の 実家 に

hobage yebage ergeneme〔S : ergendume〕yumbi〔D:yombi〕
ホバゲ エバゲ 共に安らぎに 行く。

hobage yebage goro mafa boode
ホバゲ エバゲ 外祖父（母の父）の 家に

hobage yebage goirame〔D : goimarame〕genembi
ホバゲ エバゲ 様子よく振舞に 行く。

hobage yebage goro mama bade
ホバゲ エバゲ 外祖母（母の母）の 所に

hobage yebage maksime yombi
ホバゲ エバゲ 舞いに 行く。

hobage yebage deheme boode
ホバゲ エバゲ 姨父（母の妹の夫）の 家に

hobage yebage dekdešeme〔dekderšeme[51]〕genembi
ホバゲ エバゲ 心を呼醒ましに 行く。

42. hobage yebage ecike i boode
ホバゲ エバゲ 叔父（父の弟）の 家に

hobage yebage ergen be ganambi
ホバゲ エバゲ 生命 を 取りに行く。

hobage yebage mimbe doobuci
ホバゲ エバゲ わたしを 渡らせれば

hobage yebage misun bumbi
ホバゲ エバゲ 味噌を あげよう。

hobage yebage hūdun doobuci
ホバゲ エバゲ はやく 渡らせれば

hobage yebage hoošan bumbi
ホバゲ エバゲ 紙を あげよう。

hobage yebage bai dooburakū,
ホバゲ エバゲ ただでは 渡らせぬのなら

hobage yebage basan〔V, S : basa〕bumbi
ホバゲ エバゲ 礼物を あげよう。

hobage yebage unenggi doobuci
ホバゲ エバゲ 本当に 渡らせれば

hobage yebage ulin bumbi
ホバゲ エバゲ 財貨を あげよう。

hobage yebage hahilame doobuci
ホバゲ エバゲ いそいで 渡らせれば

hobage yebage hatan arki
ホバゲ エバゲ 強い 焼酎を

hobage yebage alibume bumbi
ホバゲ エバゲ 献じて 上げよう。

hobage yebage ehe bade
ホバゲ エバゲ 悪い 所に

hobage yebage ergen be jolinambi
ホバゲ エバゲ 生命 を 贖いに行く。

hobage yebage farhūn bade
ホバゲ エバゲ 幽暗の 所に

hobage yebage fainggo〔V, S : fayangga〕be farganambi
ホバゲ エバゲ 霊魂 を 追って行く。

hobage yebage
ホバゲ エバゲ

serede doholo laihi〔V, S:laihūn〕donjifi hontoho[52] cuwan be hontoho
と言うと，跛の 無頼者が 聞き，破れ 船 を 破れ

selbi i selbime bakcin ergi dalin de isinjifi nišan
櫂 で 漕いで 向い（こちら）側の 岸 へ やって来た。ニシャン

saman tuwaci yasa gakta〔S : gakda〕
サマンが 見ると，目が 片目，

43. oforo waikū〔S : waiku〕, šan kemteku,[53] uju kalji〔V, S : kalja〕,
鼻が 曲がり，耳が 壓し潰され，頭は 禿げ上り，

bethe doholo〔V, S : doholon〕gala gaba〔S : gafa〕, hanci jifi
足は 跛，手の 指が曲がっていた。近くに 来て

hendume saman hehe nio aika gūwa niyalma oho biheci ainaha
言った。「サマン 女様 か。もし 他の 人 だった なら 決して

seme dooburakū bihe, gebu algin be donjime takame ofi
渡さないところだった。名 声 を 聞き 知って おり，

giyan i ere mudan mergen gebu tucire hesebun giyan ofi,
必らず や この たび 賢 名の 現われるべき 天命 道理であって，

arga akū simbe doobumbi sefi nišan saman
ほかに仕様 もなく あなたを 渡す」 と言った。ニシャン サマンは

weihu de tafafi doholo〔doholon〕laihi〔laihūn〕šurku〔V, S:šuruku〕
独木船 に 乗った。 跛の 無頼者が 棹

i šurume, selbi selbime cargi bakcin de doobuha manggi nišan
で 船をやり，櫂を 漕ぎ 彼方の 対岸 に 渡した 後，ニシャン

saman baniha bume ere majige untuhun gūnin ilan dalhan
サマンは 感謝を 述べ「この わずかの 寸 志の 三 塊の

misun, ilan sefere hoošan be gemu bargiyame werireo sefi,
味噌，3 帖の 紙 を みな 収めておいて おくれ」と言った。

geli fonjime ere dogūn〔V, S : dogon〕be yaka niyalma dome
又 問うて，「この 渡し場 を 誰ぞ 人が 渡って

〔V, S : doome〕genehe akū seme fonjihade,
行かなかったか」と たずねると，

44. doholo〔doholon〕laihi〔laihūn〕alame umai gūwa niyalma doho
跛の 無頼者は 言う「誰も 他の 人は 渡って

〔V, S : dooha〕 akū damu han i niyaman monggoldai
いない。 ただ（閻羅）王 の 親戚の モンゴルダイ

nakcu baldu bayan i haha jui sergudai fiyanggo
ナクチュ(舅)が バルドゥ バヤン の 男の子 セルグダイ フィヤンゴの

fainggo〔fayangga〕 be gamame duleke, nišan saman
霊魂 を 取りに 通り過ぎて行った」。ニシャン サマンは

baniha bume, uthai juraha〔V, S:juraka〕, yabume goidahakū geli
礼を して，すぐさま 出発した。行って まもなく 又

fulgiyan birai dalin de isinafi šurdeme tuwaci dokūn〔V, S:dogon〕
紅 河の 岸辺 に 着いた。まわりを 見わたすと 渡し場を

doobure jahūdai akū bime emu niyalma helmen be inu saburakū
渡す 舟が なく， ひとりの人 影 すら も 見えない

ofi arga akū weceku de baime yayame〔yayadame〕 deribuhe
ので，せん方 なく 神霊 に 請うて 誦念し はじめた。

eikuli yekuli abka be šurdere
エイクリ エクリ 天 を 旋る

eikuli yekuli amba daimin〔damin〕
エイクリ エクリ 大 鵰（わし)。

eikuli yekuli mederi be šurdere
エイクリ エクリ 海 を 旋る

eikuji yekuli menggun inggalii〔V : inggali〕
エイクリ エクリ 銀の 鶺鴒（せきれい)。

eikuli yekuli bira cikin be šurdere
エイクリ エクリ 河 岸 を 旋る

eikuli yekuli cecereku〔V, S : cecercuke〕[54] meihe
エイクリ エクリ 怒り のたうつ 蛇

45. eikuli yekuli jan bira be šurdere
エイクリ エクリ 江 河 を 旋る

eikuli yekuli jakūn da[55] jabjan
エイクリ エクリ 8 尋（ひろ）の 蟒（うわばみ)。

eikuli yekuli ajige ejin〔ejen〕 mini beye
エイクリ エクリ 小さい 主人よ， わたくし 自身

eikuli yekuli ere bira be
エイクリ エクリ この 河 を

eikuli yekuli doombi sembi
エイクリ エクリ 渡ろうと 思う。

eikuli yekuli geren wecense〔S : wecen se〕
エイクリ エクリ 全ての 精霊等よ,

eikuli yekuli wehiyeme dooburo〔doobureo〕
エイクリ エクリ 助けて 渡らせておくれ。

eikuli yekuli hūdun hasa
エイクリ エクリ 早く いそいで

eikuli yekuli erdemu be tucibureo
エイクリ エクリ 才徳 を 現し見せておくれ

eikuli yekuli
エイクリ エクリ

sefi yemcen〔imcin〕be bira muke de maktafi saman i beye
と言い, 男手鼓 を 河 水 に 投げ入れ, サマン 自 身

ninggude ilifi uthai edun su i gese dartai andande
(手鼓の) 上に 立ち, 即ち 疾風, 旋風 の ように たちまち にして

bira be doofi, bira ejin〔ejen〕de ilan dalhan misun, ilan sefere
河 を 渡った。河の 主 に 3 塊の 味噌, 3 帖の

hoošan basan〔basa〕werifi uthai jurame yaburengge hahi ofi
紙の 礼物を 残し, すぐさま 出発し, 行くこと 早くして

uju furdan de isinjifi duleki serede furdan tuwakiyaha
第1の 関門 に 着いた。通り過ぎようとすると 関門を 守る

seletu senggitu[56] juwe
鐵色, 血色, 2人の

46. hutu esukiyeme hendume ainaha niyalma gelhun akū ere
鬼が 大声で怒鳴って言った。「どのような 者が 敢 て この

furdan be dosiki sembi, be ilmun han i hese be alifi
関門に入りたいと言っているのか。我々は 閻羅 王 の 旨 を 受け

ere furdan be tuwakiyambi, hūdun turgun be ula serede
この 関門 を 守っているのだ。さっさと 理由 を 述べよ」と言うと,

nišan saman hendume mini beye weihun gurun i nišan
ニシャン サマンは 言った。「私 自身は 俗世の 国 の ニシャン

saman inu, bucehe gurun de monggoldai nakcu be
サマン です。黄泉の 国 に モンゴルダイ ナクチュ (舅) を

baihanambi sehede juwe hutu esukiyeme tuttu oci
探しに来ました」と言うと, 2人の 鬼は 怒鳴って言った。「それなら

furdan dosire kooli gebu, basan〔basa〕be werifi dosimbumbi
関門に 入る 定例により 名前と 礼物 を 置いて は入らせる」

sehede nišan saman gebu afahari ilan dalhan misun, ilan
と言うと ニシャン サマンは 名 札, 3 塊の 味噌, 3

sefere hoošan be bufi teni duleme genehebi, yabume jai
帖の 紙束 を与え, やっと 通り過ぎて 行った。歩を進めて 第2の

furdan de isinafi inu onggolo songkoi gebu, basan〔basa〕 jergi
関門 に 着くと また 前の ように 名前, 礼物 などを

werifi duleme yabuhai ilaci furdan i monggoldai
置き 通り過ぎて 行く中に 第3の 関門 の モンゴルダイ

47. nakcu i duka bade isinafi siša lasihiyame〔V, S:lasihime〕,
ナクチュ の 門の ところに 着いた。腰鈴を 揺り鳴らし,

honggo〔S : honggon〕 hoyome〔S : hūyame〕 hocohon〔S : hocikon〕
神鈴を 鳴らし 涼しい

jilgan i hogo yage hūlame
声 で ホゲ ヤゲを 誦えた。

monggoldai nakcu
モンゴルダイ ナクチュ,

hoge yage hūdun hahi
ホゲ ヤゲ 早く いそいで

hoge yage tucime jidereo
ホゲ ヤゲ 出て 来ておくれ。

hogo yage ai jalin de
ホゲ ヤゲ 何の ため に

hoge yage sain i banjire
ホゲ ヤゲ 善良 に 暮らす

hoge yage jalgan akūngge
ホゲ ヤゲ 寿命の ない者を

hoge yage jafafi gajiha
ホゲ ヤゲ 捕えて 連れて来たのか。

hoge yage erin unde
ホゲ ヤゲ 時で ないのに

hoge yage ergeleme gajiha
ホゲ ヤゲ 無理強いに 連れて来たのか。

hoge yage amasi buci
ホゲ ヤゲ もどして くれたら

hoge yage ambula baniha
ホゲ ヤゲ 大いに 感謝する。

hoge yage bai buci
ホゲ ヤゲ ただで くれたら

hoge yage baniha bumbi
ホゲ ヤゲ お礼を しょう。

hoge yage banjire aldasi
ホゲ ヤゲ 生きる 中途で

hoge yage balai gajiha
ホゲ ヤゲ 妄りに 連れて来た。

hoge yage eitereme gajiha
ホゲ ヤゲ 欺いて 連れて来た。

hoge yage aiseme jabumbio
ホゲ ヤゲ これにどう言って 答えるのか。

hoge yage bai gamarakū
ホゲ ヤゲ (わたしはあの子を) ただで連れては行かぬ。

48. hoge yage basan 〔basa〕 bumbi
ホゲ ヤゲ 礼物を あげよう。

hoge yage holtome gamarakū
ホゲ ヤゲ (わたしはあの子を) 騙して連れては行かぬ。

hoge yage hūda werimbi
ホゲ ヤゲ 代価を 置こうぞ。

hoge yage minde buci
ホゲ ヤゲ わたしに くれたら

hoge yage misun bumbi
ホゲ ヤゲ 味噌を あげよう。

hoge yage tucibufi buci
ホゲ ヤゲ 出して くれたら

hoge yage turgin 〔S : turigen〕 bumbi
ホゲ ヤゲ 工銭を あげよう。

hoge yage doigonde buci
ホゲ ヤゲ 先に くれたら

hoge yage dorolombi
ホゲ ヤゲ 礼をしょう。

hoge yage geli burakūci
ホゲ ヤゲ もし又 くれないのなら

hoge yage sain ba akū
ホゲ ヤゲ 良い 事は ない。

hoge yage weceku hūsunde
ホゲ ヤゲ 神霊の 力で

hoge yage deyeme genembi
ホゲ ヤゲ 飛んで 行く。

hoge yage boo de dosime
ホゲ ヤゲ 家 に 入り

hoge yage ganame genembi
ホゲ ヤゲ 連れ去って 行こう。

hoge yage
ホゲ ヤゲ

seme nišan saman siša lasihiyame〔V, S : lasihime〕 yekse
と ニシャン サマンは 腰鈴を 揺り鳴らし 神帽を

isihime honggo〔S : honggon〕 hoyodome〔S : hūyame[57]〕 halang〔S,
ふるわし 神鈴を 鳴らし,

kalang〕 sere jilgan be guwebure〔S:guwembure〕 jakade monggoldai
カラン と 音 を 鳴り響かせた ので, モンゴルダイ

nakcu injeme tucifi hendume nišan saman getuken i
ナクチュは 笑って 出て来て 言った。「ニシャン サマン, はっきり と

donji bi baldu bayan i haha jui sergudai fiyanggo
聞くがよい。私が バルドゥ バヤン の 男の 子 セルグダイ フィヤンゴ

be gajihangge yargiyan sinde ai dalji
を 連れて来たのは 本当だ。そなたに 何の かかわりがあろうぞ。

49. bi sini booi ai jaka be hūlhafi gajiha seme
わたくしが そなたの 家の どんな 物 を 奪い 取った と言って,

mini duka bade ilifi den wakalan jilgan i dangsimbi
(どうして)私の門の 所に 立ち, 高い 叱責の 声をあげて 非難するのか」

serede, nišan saman hendume udu hacin i mini jaka be
というと, ニシャン サマンは 言った。「いくら どんな 私の 物 でも

hūlhafi gajihakū bicibe weri sain banjire jalgan
奪い 取って来てはいないと言っても, 他人の 善良に 暮らす 寿命の

akū niyalma be, sui akū jui be gajici ombio, monggoldai
ない 者 を, 罪 なき 子 を 奪い去ってよかろうぞ」。モンゴルダイ

nakcu hendume meni ilmun han hese gajihangge, tere jui be
ナクチュ が言った。「我等が 閻羅 王の 旨を 受け来り, その 子 を

gajifi, cendeme den siltan de aisin jiha lakiyafi jiha sangga
連れて来て, 試しに 高い 旗竿 に 金の 銭を 吊し掛け, 銭の 孔

be gabtabure jakade ilan da gemu gūwaihabi〔S : goihabi〕, amala,
を 射させた ところ, 3 本 とも 中たった。 後

geli cendeme lamun buku i baru jafanabure〔S: jafunubure〕 jakade
また 試しに 藍色の 力士 と 相撲をとらせた ところ,

buku be tuhebuhebi, geli arsulan〔S:arsalan〕 buku i baru jafanabuci
力士 を 倒した。 又 獅子 力士 と 相撲をとら

〔S : jafunubuci〕 inu hamirakū ofi meni ilmun han jui obufi
せると, 又 適わなかったので われらが 閻羅王は 子 となし

jilame ujimbi
慈しみ 養っている

50. kai, sinde amasi bure doro bio seme emu fiyelen gisun
ぞ。そなたに 戻して やる 道理があろうか」という 1 片の 言葉

de nišan saman donjifi, ambula jili banjifi monggoldai
を ニシャン サマンは 聞き, 大いに 怒りを 発し, モンゴルダイ

nakcu i baru hendume tuttu oci sinde heni dalji
ナクチュ に 向かって 言った。「それ ならば お前には 少しも かかわり

akū dere, si emu sain niyalma biheni, mini
あいは ないだろう。お前は ただの 善良な 人間 なのだね。 私の

ecehen〔S:encehen〕 i ilmun han be baihanafi sergudai fiyanggo
才幹 で 閻羅 王 を 探しに行き, セルグダイ フィヤンゴ

be bahara baharakū, ujude mini erdemu amba oci, uthai gajimbi,
を 得るか 得ないかだ。第 1 に 私の 徳が 大きければ, 即ち 連れ帰ろう。

erdemu cingiyan〔D : cinggiya〕 oci uthai wajiha, sinde heni
徳が 足りなけれ ば 即ち 已もう。 お前には 少しも

dalji akū sefi, han i hoton be baime geneme goidaha
関係はないのだ」と言い, 王の 都城 を 目ざして 行き, 幾許も

akū isinafi tuwaci duka be akdulame yaksihabi, nišan
なく 着いて みると 門 は 固く 門がおろされていた。ニシャン

saman dosime muterakū šurdeme tuwafi hoton weilehe ningge
サマンは 入る 事ができず 周りを 見ると, 城の 構築 物は

akdun beki ofi ambula fancafi yayame deribuhe,
頑丈 堅固 で 大いに 焦躁し 誦念し はじめた。

51. kerani kerani dergi alin de
ケラニ ケラニ 東の 山 に

kerani kerani tomoho
ケラニ ケラニ 住む

kerani kerani dekdere gasha
ケラニ ケラニ 飛びたつ 鳥。

kerani kerani cangling alin de
ケラニ ケラニ チャンリン 山 に

kerani kerani cakūra〔S : cakūran〕 moo canggisa〔D : cung-
ケラニ ケラニ 檀 木の 水花冠,
gaisa[58]〕

kerani kerani mangkan alin de
ケラニ ケラニ 沙丘の 山 に

kerani kerani tomoho
ケラニ ケラニ 住む

kerani kerani mangmoo〔S : mangga moo〕 manggisa
ケラニ ケラニ くぬぎの木の 穴熊。
〔D : manggisu〕

kerani kerani uyun da meihe
ケラニ ケラニ 9 尋の 蛇。

kerani kerani jakūn da jabjan
ケラニ ケラニ 8 尋の 蟒（うわばみ)。

kerani kerani wehe ukdun
ケラニ ケラニ 石の 洞窟。

kerani kerani sele guwan de
ケラニ ケラニ 鐵の 館 に

kerani kerani tomoho
ケラニ ケラニ 住む

kerani kerani taran〔S : targan〕 tasha
ケラニ ケラニ 彪 虎

kerani kerani onioko〔V, S : ongnika[59]〕 lefu
ケラニ ケラニ 脆性, 熊。

kerani kerani alin be šurdere
ケラニ ケラニ 山 を めぐる

kerani kerani aisin inggali
ケラニ ケラニ 金 鶺鴒。

kerani kerani mukden[60]〔K : mukderhun〕 be šurdere
ケラニ ケラニ 沙漠 を めぐる

kerani kerani menggun inggali
ケラニ ケラニ 銀 鶺鴒。

kerani kerani deyere giyahūn
ケラニ ケラニ 飛ぶ 鷹。

kerani kerani dalaha daimin〔damin〕
ケラニ ケラニ 首領となった 鵰（いぬわし）。

kerani kerani alaha〔S : alha〕daimin〔damin〕
ケラニ ケラニ 花紋 鵰。

52. kerani kerani nai jule〔D : yolo〕se
ケラニ ケラニ 地の 狗頭鵰（いぬわし）等。

kerani kerani uyun uri[61]
ケラニ ケラニ 9 段

kerani kerani juwan juwe faidan
ケラニ ケラニ 12 列の

kerani kerani geren julese〔D : yolose〕
ケラニ ケラニ もろもろの 狗頭鵰等。

kerani kerani hūdun hahi
ケラニ ケラニ はやく

kerani kerani deyeme hoton de
ケラニ ケラニ 飛んで 都城 に

kerani kerani dosifi gajireo
ケラニ ケラニ 入り 連れて来ておくれ。

kerani kerani wašiha〔V, S : wasiha〕ci
ケラニ ケラニ 鳥の爪 で

kerani kerani wašihalame〔wasihalame〕gajireo
ケラニ ケラニ 摑んで 連れて来ておくれ。

kerani kerani šoforo ci
ケラニ ケラニ かぎ爪 で

kerani kerani šoforome gajireo
ケラニ ケラニ つまみ取り 連れて来ておくれ。

kerani kerani aisin hiyanglu[62] de
ケラニ ケラニ 金の 香爐 に

kerani kerani alamime tebufi gaju
ケラニ ケラニ 背負って のせて 連れておいで。

kerani kerani menggun hiyanglu de
ケラニ ケラニ 銀 の 香爐 に

kerani kerani ungkufi〔S : ungkefi〕gaju
ケラニ ケラニ 俯伏せに伏せて連れておいで。

kerani kerani meiren i hūsun de
ケラニ ケラニ 肩 の 力 で

kerani kerani meihereme gajireo
ケラニ ケラニ 擔いで 連れて来ておくれ。

kerani kerani
ケラニ ケラニ

sehe manggi geren weceku se deyeme mukdefi tugi talman
と言ったので，もろもろの 神霊 等は 飛び 上り， 雲か 霧の

gese, sergudai fiyanggo geren juse i emgi aisin
ようになった。セルグダイ フィヤンゴが 多くの 子等 と 共に 金

menggun gašiha〔S : gacuha[63]〕maktame efime bisire namšan〔S :
銀 の 骨牌 を 投げて 遊んで いる と，

namašan〕emu
1羽の

53. amba gasha uthai wasime genefi šoforome jafafi den mukdefi
大 鳥が たちまち 降りて 行き， 摑み 取り， 高く 舞い上り，

gamaha, gūwa juse sabufi gemu golofi sujume boode dosifi
連れ去った。 他の 子等が 見て 皆 驚き， 走って 家に 入り，

han ama de alame ehe oho sergudai ahūn be
父なる王 に 告げた。「大変なことになった。 セルグダイ 兄 を

emu gasha jifi šoforome gamahabi serede
1羽の 鳥が 飛んで来て 摑んで連れて行ってしまった」 と言うと，

ilmun han donjifi ambula fancafi hutu be takūrafi monggoldai
閻羅 王は 聞いて 大いに 怒り， 鬼 を 遣って モンゴルダイ

nakcu be hūlame gajifi beceme hendume sini gajiha
ナクチュ を 呼び 出し 罵り責めて言った。「お前が連れて来た

sergudai fiyanggo be emu amba gasha šoforome gamaha,
セルグダイ フィヤンゴ を 1羽の 大 鳥が 摑んで 行った。

erebe, bi bodoci gemu sini arga be boljoci ojorakū, si minde
これを 私が 想うに 皆 お前の 策謀だとは 思え ない。 お前は私に

adarame icihiyambi sehede monggoldai elhei
どうして 始末をつけるのか」 と言うと， モンゴルダイは おもむろに

gūnici gūwa waka, nišan saman dere seme uthai
思った「ほかの誰でもない。ニシャン サマン だろう」と。そこですぐ

hendume ejen ume jili banjire bi gūnici gūwa
さま言った。「王よ， 怒らないで下さい。 私は 思うに 他の者ではあり

waka
ません。

54. weihun gurun de uju tucike, amba gurun de algin
俗世の 国 に 頭角が現われ，大国(大王の黄泉の国)にも その名の

algiha nišan saman jifi gamaha dere, bi te
高い ニシャン サマンが やって来て連れ去ったのでしょう。私は今

uthai amcame genefi tede baime tuwaki, tere saman
すぐさま 追いかけて 行き，彼処で 探して 見ましょう。あのサマンの

gūwa de duibuleci ojorakū sefi uthai
外 には 較べることはでき(思い当り)ません」と言い，すぐさま

amcame genehe tereci nišan saman sergudai fiyanggo
追って 行った。それから ニシャン サマンは セルグダイ フィヤンゴ

be bahara jakade ambula urgunjeme gala be jafafi kutuleme amasi
を 得た ので 大いに 喜こび，手 を 取り 引いて もどり

marifi fe jugūn be jafame yaburede monggoldai amargici
還り，もと来た路 を とって 帰ると，モンゴルダイが 後から

amcame hūlame saman gehe〔gege〕majige aliya, muse
追いかけて来て呼んだ。「サマン女よ，ちょっと待て。我等は

giyan be majige gisureki, ekisaka gamara doro bio,
道理 を ちょっと 話したい。黙って 連れて行く道理が あろうか。

mini beye utala hūsun fayame arkan seme gajime baha sergudai
私自身 これ程 力を 費し，ようやく 取り 得た セルグダイ

fiyanggo be si yargiyan i saman de ertufi bai
フィヤンゴ を お前は 本当 に サマン(の術)に 依り恃み，ただで

gamaki sembio aise, meni ilmun han fancafi mimbe
連れて行こうというのか どうか。我等の 閻羅 王は 怒り，私を

55. wakalahabi, te bi adarame jabumbi, saman gehe〔gege〕
譴責されたのだ。今 私は どのように 答えよう。サマン 女よ，

elhe i gūnime tuwafi, dade basan〔basa〕geli akū bai
ゆっくり 考えて みるに，どだい礼物 も なしに ただで

gamarangge, elei giyan de acanarakū gese sehede,
連れ去るのは，ほとんど 道理 に あわない事の ようだね」と言うと，

nišan saman hendume monggoldai si ere gese sain
ニシャン サマンは 言った。「モンゴルダイ，お前が この ような 良い

angga baici hono sinde basan〔basa〕majige werimbi,
言葉で 頼むのなら，尚また お前に 礼物を 少し 置いてやろう。

si aika suweni han de ertufi etuhušeme yabuci we
お前が もし お前達の 王 を 恃んで 無理に事をおこなえば, 誰が

sinde gelembio muse emu amba babe acafi, da dube tucibuki
お前を 怖れようぞ。我等は 一 大 事を 和合し, 始 末をつけよう」

sefi ilan dalhan misun, ilan sefere hoošan be buhe manggi
と言い, 3 塊の 味噌, 3 帖の 紙 を 与える と,

monggoldai geli baime hendume sini bure basan〔basa〕
モンゴルダイは また 請うて 言った。「お前の くれた 礼物は

jaci komso kai jai majige nonggime bureo sehe manggi
甚だ 少ない ぞ。もう 少し 加えて くれ」 と言った ので,

nišan saman geli emu ubu nonggime buhe manggi, geli
ニシャン サマンが また 幾分 加えて やる と, 又

baime hendume ere majige basan〔basa〕be
請うて 言った 「この 少しの 礼物 を

56. meni han de burede yargiyan i banjinarakū dade
我等が 王 に 差し出したところで, 本当に 何にもならない。 且又

mini weile adarame sume mutembi, bairengge saman gehe
私の 罪は どうしたら 許されるのだろう。お願いだから サマン 女よ,

〔gege〕sini gajiha coko indahūn be minde werifi
そなたの 持って来た雞, 犬 を 私に 残し (てくれ),

mini weile be sume ilmun han de benefi ini
(それを私は) 私の罪 を 許すよう 閻羅 王 に 送る。(そうすれば)

abalara indahūn akū, dobori hūlara coko akū de meni han
彼には 獵 犬 が なく, 夜 鳴く 雞も ないので, 我等の 王は

urgunjefi oci emude saman gehe i baita muyahūn
喜こぶだろう。そうなれば 第1 には サマン 女 の 事は 帳消

ombi, jaide mini weile be sumbi serede, nišan
となる。 次には 私の 罪 を 許すだろう」 と言うと, ニシャン

saman hendume tere inu juwe ergide tusa yohi[64] ombi,
サマンは言った。「それはまた 双 方で 益となり 良い結果となろう。

damu sergudai de jalgan be nonggime buci ere indahūn
ただ セルグダイ に 寿命 を 加えて くれるなら, この 犬

coko be gemu werifi genembi sehede monggoldai hendume
雞 を みんな 置いて行こう」 と言うと, モンゴルダイは言った。

「saman gehe〔gege〕si uttu gisureci sini
サマン 女よ, そなたが このように 言うのなら, そなたの

derebe tuwame orin se jalgan nonggiha, saman hendume
面目を考えて 20 歳の 寿命を 加えた」。 サマンは言った。

57. oforo niyaki olhoro unde de gamaha seme tusa akū,
「涕 涙が まだ乾かないの に 連れて行ったとて 何の益もない」。

tuttu oci gūsin se jalgan nonggire,
「それ なら 30 歳の寿命を 加えよう」。

kemuni gūnin mujilen toktoro undede gamaha seme ai
「尚まだ 意 志が 定まらないのに 連れて行った とて 何の

tusa, tuttu oci dehi se jalgan nonggire,
益があろう」。「それなら 40 歳の寿命を加えよう」。

kemuni derengge wesihun alire unde de gamaha seme tusa
「尚まだ 名望 貴顕を 得 ないの に 連れ去った とて 益が

akū, tuttu oci susai se jalgan nonggire,
ない」。「それなら 50 歳の寿命を 加えよう」。

kemuni sure mergen ojoro unde gamaha seme ai tusa,
「尚まだ 聰明 智者とならぬのに 連れ去ったとて 何の 益があろう」。

tuttu oci ninju se jalgan nonggire,
「それなら 60 歳の 寿命を加えよう」。

kemuni niru beri be urebume tacire unde de gamaha seme
「尚まだ 矢 弓 を 習 学していない のに 連れ去ったとて

tusa akū, tuttu oci nadanju se jalgan nonggire,
益もない」。「それなら 70 歳の 寿命を 加えてやろう」。

kemuni narhūn weile be tacire unde de gamaha seme ai tusa,
「尚まだ こまかい 事 を 学んでいないのに 連れ去っても 何の益が

tuttu oci jakūnju se jalgan nonggire,
あろう」。「それなら 80 歳の 寿命を 加えよう」。

58. kemuni jalan baita be ulhire unde de gamaha seme tusa akū,
「尚まだ 世 事 を 理解していないのに 連れ去ったとて益もない」。

tuttu oci, uyunju se jalgan be nonggiha,
「それなら 90 歳の 寿命 を 加えた。

jai nonggici banjinarakū oho, sergudai ereci
これ以上加えることは(私には)どうにもできない。 セルグダイは これ

amasi ninju aniya nimeku akū, tanggū aniya targa〔D:
より 以後 60 年間 病 なく, 100 年間 痩せ衰ろえる事

turga[65]〕 akū, ura šurdeme uyun juse ujikini, jalan aššame
もなく, 腰のまわりに 9人の子等を養うように。 世代が 動き

jakūn jui sabukini, uju funiyehe šartala〔šaratala〕, angga weihe
８人の 子を 見るように。頭 髪が 白くなるまで, 口 歯が

sortolo〔V, S: sorotolo〕, dara musutele〔V, S: musetele〕, yasa ilhanara
黄色くなるまで, 腰が 曲がるまで, 目が かすむ

tala, bethe bekterere teile, umuhu〔V, S:umuhun〕 de siteme, guweye
まで, 足が よろける まで, 足の甲 に 排尿し, 踵（か

〔S: guye〕 de hamtame banjikini sehede, nišan saman
がと） に 大便をして生きるように」というと, ニシャン サマンは

banina bume hendume monggoldai nakcu si ere gese
感謝 して 言った。「モンゴルダイ ナクチュよ。そなたがこのような

gūnin tucime fungneci coko indahūn be gemu buhe,
意中を口にして 栄典を与えるなら, 雞 犬 を みんな与えよう。

coko be aši seme hūla, indahūn be ceo seme hūla
雞 を アシ と 呼びなさい。犬 を チェオ と呼びなさい」

59. serede monggoldai baniha bume ambula urgunjefi coko
と言うと, モンゴルダイは 感謝 して 大変 よろこび 雞

indahūn jergi be gaime yaburede gūnime cendeme hūlame
犬 など を 受け取って 行く時 思った。「試しに 呼んで

tuwaki seme juwe be gemu sindafi, aši aši, ceo ceo seme
みよう」と ２匹 を みな 放して, アシ アシ, チェオ チェオ と

hūlara jakade coko indahūn gemu amasi marifi aibi seme
呼んだ ので 雞 と 犬 は みな くるりと向をかえ, 何処か と

nišan saman be amcame genehe, monggoldai golofi ergen
ニシャン サマン を 追いかけて行った。 モンゴルダイは 驚き 息を

biakū〔D : bi akū〕 sujume baihanafi, he fa seme fodome
切らして 走り 探しに行き, はあはあ と 喘ぎながら

baime hendume saman gehe〔gege〕 ainu yobodombi,
頼んで言った。 「サマン 女よ, どうして 冗談を言うのか。

absi sini coko indahūn be mini hūlara sasa amasi
どうして そなたの 雞 と 犬 は 私が 呼んだら一緒に 後を

forome genehebi, bairengge ume holtoro ere juwe
向いて 行ってしまったのだ。お願いだから 欺かないでくれ。この ２

hacin jaka be gamarakū oci, yargiyan ojorakū, han mimbe
件の 物 を 持って行かないと, 本当にいけないのだ。 王が 私の責

wakalahade bi adarame alime mutembi seme dahin dahūn
を咎める時, 私は どのようにして 耐え られよう」と 繰返し

baire de nišan saman
頼む と，ニシャン サマンは

60. injeme hendume heni yobodome efihengge, ereci
笑って 言った。「ちょっと たわむれに 遊んだまでのこと。これから

amasi saikan i eje, bi sinde alara, coko
後は よく 憶えておきなさい。私はお前に 言って聞かせよう。雞

be gu gu seme hūla, indahūn be eri eri seme hūla sehe
は グ グ と 呼びなさい。犬 は エリ エリ と 呼びなさい」

manggi, monggoldai hendume gehe〔gege〕heni tani
と言ったので，モンゴルダイは 言った。「あなたは ほんの少し

yobodoho, mini beye nei taran tucikebi, sefi saman
たわむれをしただけだが，私自身は冷汗をかいたぞ」と言った。サマン

i alaha gisun songkoi hūlara jakade coko indahūn gemu mong-
の 言った 言葉 どおり 呼んだ ので，雞と 犬は 皆 モンゴ

goldai beye be šurdeme uju ucihin〔V, S : uncehen〕lasihime
ルダイの体 を めぐり 頭と 尾を 振り振り

dahalame genehe, tereci nišan saman sergudai gala
後に隨いて 行った。それから ニシャン サマンは セルグダイの 手

be jafafi kutuleme jidere de jugūn dalbade ini eihen〔V, S : eigen〕
を 取り ひいて 来る と 路の 傍で 彼女の 夫

be ucirafi〔V, S : ucarafi〕tuwaci nimenggi mucen be šušu orho i
に 出遇った。見ると 油の（入った）鍋 を 高粱の幹 で

tuwa sindame fuyebumbi, arbun be tuwaci jili banjihabi,
火を 焚き 煮たてている。顔貌 を うかがうと 憤怒をあらわに

sargan be sabure jakade weihe be emgeri katur seme
していた。(彼は)妻 を 見る と 歯 を 1度 カチッ と

61. saime seyeme hendume dekdeni[66] nišan si gūwa niyalma
咬んで 恨めしげに言った。「浮蕩の ニシャンよ。お前は 他 人

be gemu weijubume mutere anggala ajigen ci gaiha haji
を みな 蘇らすことができ ても， 幼少から めあわされた 親愛な

halhūn eigen mimbe aitubume gamaci eheo bi cohome
熱い 夫， 私 を 助けて 連れて行くのは悪いのか。私は 特に

ubade nimenggi mucen be fuyebufi simbe aliyambi, si
ここで 油 鍋 を 煮たたせて お前を 待っていた。お前は

eici aitubure eici aituburakū babe hūdun gisure,
或は 助けるのか それとも 助けないのか どうかを 早く 言え。

yargiyan aituburakū oci simbe unggirakū ningge mujanggo〔V, S:
本当に 助けないのなら お前を かえさない ことは 当然ではないか。

mujanggao〕, ere mucen uthai sini bakcin oho sehede
この 鍋は すぐに お前の 相手になるぞ」と言うと

nišan saman baime hendume
ニシャン サマンは 頼んで 言った。

eigen haji, hailambi[67] šulembi[68]
夫よ 愛する，ハイランビ シュレンビ

ekšeme donji hailambi šulembi
いそいで お聞き。ハイランビ シュレンビ

haha haji hailambi šulembi
男よ 愛する，ハイランビ シュレンビ

hahilame donji hailambi šulembi
急いで お聞き。ハイランビ シュレンビ

nekeliyen šan be hailambi šulembi
薄い 耳 を ハイランビ シュレンビ

neifi donji hailambi šulembi
開いて お聞き。ハイランビ シュレンビ

62. giramin〔jiramin〕šan be hailambi šulembi
厚い 耳 を ハイランビ シュレンビ

gidafi donjireo hailambi šulembi
壓えて 聞いてくれ。ハイランビ シュレンビ

sini beye hailambi šulembi
お前の 身体は ハイランビ シュレンビ

siren sube lakcaha hailambi šulembi
腱 筋が 断ち切れ ハイランビ シュレンビ

aifini bucefi hailambi šulembi
とっくに 死んで ハイランビ シュレンビ

aikime〔S : akiyame[69]〕niyaha hailambi šulembi
芯まで 朽ちた。ハイランビ シュレンビ

giranggi yali hailambi šulembi
骨も 肉も ハイランビ シュレンビ

gemu hungkenehe〔S : honggonoho[70]〕hailambi šulembi
みんな ぼろぼろになった。 ハイランビ シュレンビ

absi weijubumbi hailambi šulembi
どうして 蘇らせよう。ハイランビ シュレンビ

haji eihen〔V, S : eigen〕hailambi šulembi
愛する 夫よ。 ハイランビ シュレンビ

gūsime〔V, S : gosime〕gūnici hailambi šulembi
憐れに 思うなら，ハイランビ シュレンビ

dulembume unggireo hailambi šulembi
通して やっておくれ。ハイランビ シュレンビ

sini eifu de hailambi šulembi
お前の墓 に，ハイランビ シュレンビ

hoošan jiha be hailambi šulembi
紙 銭 を ハイランビ シュレンビ

labdu deijire hailambi šulembi
たくさん 焼こう。ハイランビ シュレンビ

buda sogi be hailambi šulembi
御飯と 蔬菜 を ハイランビ シュレンビ

labdu doboro hailambi šulembi
たくさん 供えよう。ハイランビ シュレンビ

sini eniye be hailambi šulembi
お前の 母 を ハイランビ シュレンビ

eršeme kudulembi〔K : kundulembi[71]〕hailambi šulembi
養い 恭しく仕えよう。 ハイランビ シュレンビ

erebe gūnici hailambi šulembi
これを 思って ハイランビ シュレンビ

63. ergen be guwebureo hailambi šulembi
命 を 赦しておくれ。ハイランビ シュレンビ

sakda eme be hailambi šulembi
歳老いた 母 を ハイランビ シュレンビ

šar seme gūnifi hailambi šulembi
憐れ と 思い ハイランビ シュレンビ

hor[72] seme dulembureo hailambi šulembi
サッ と 通してはくれまいか。ハイランビ シュレンビ

seme baire de ini eigen weihe be saime seyeme hendume
と 頼む と 彼女の 夫は 歯 を 咬み 恨めしげに 言った。

dekdeni[66] baili akū nišan saman sargan si donji mini
「浮蕩の なさけしらずの ニシャン サマン 妻，お前よ，聞け， 私

beye weihun fonde mimbe yadahūn seme yasa gidame
自身が 生きていた 時， 私が 貧しいからと言って(お前は)目を閉じ

fusihūšaha ba umesi labdu kai sini beye mujin i dolo inu
見下した 事が とても 多かったぞ。お前 自身の 心 の 中 は

getuken i sambi, ere elei gūnin cihai oho dabala
はっきりと わかっている。これは 殆んど 心の 思うままにしていた

sakda eme be sain ehe eršere eršerakū sini gūnin
だけだ。老 母 を よく 悪く 養おうと 養うまいと，お前の 心の

cihai dabala geli yasa de bisireo enenggi,
手前勝手 にすぎない。又(お前の)目にも そうであろうが。今日と

onggolo, nergin juwe kimun be emu mudan de sinde karulabuki,
以前の 機会の 二つの 仇 を 1 度 に お前に はらしてやる。

eici sini beye nimenggi
或は お前 自身で 油 の

64. mucen de dosire eici mini beye simbe aname dosimbure
鍋 に 入るか。それとも 私 自身が お前を 押して 入れるか

be hahilame toktobu serede saman dere fularafi jili banjime
を はやく 決めろ」と言うと サマンは 顔を 赤らめ 怒りを 発し

hūlame hendume
叫んで 言った。

haji eigen si donji,
愛する 夫よ，お前 聞け。

denikun denikun si bucerede
デニクン デニクン お前が 死ぬ時，

denikun denikun aibe werihe
デニクン デニクン 何を 残したのか。

denikun denikun yadara boigon de
デニクン デニクン 貧しい 家産 に，

denikun denikun sini sakda eniye be
デニクン デニクン お前の 老 母 を，

denikun denikun minde werihe
デニクン デニクン 私に 残した。

denikun denikun bi kunduleme ujimbi
デニクン デニクン 私は 手厚くもてなし 養い，

denikun denikun faššame hiyoošulambi
デニクン デニクン 勉めて 孝行をつくしている。

denikun denikun eihen 〔eigen〕 beye
デニクン デニクン 夫よ。 お前自身で

denikun denikun gūnime tuwa
デニクン デニクン 考えて みよ。

denikun denikun uthai balingga 〔V, S : bailingga〕
デニクン デニクン すなわち（私はお前にとって）恩ある

denikun denikun niyalma inu kai
デニクン デニクン 人 だ ぞ。

denikun denikun mangga mujin be
デニクン デニクン 強い 意志 を

denikun denikun bi tucibufi
デニクン デニクン 私が 出して,

denikun denikun simbe majige
デニクン デニクン お前を ちょっと

65. denikun denikun amtalambume tuwaki
デニクン デニクン 試して みよう。

denikun denikun sini kira 〔S : cira〕[73] mangga be
デニクン デニクン お前の 強 さ を

denikun denikun eberebume 〔K : eberembume〕 tuwaki
デニクン デニクン 減らして みよう。

denikun denikun umesi[74] bade
デニクン デニクン 至極の 地に

denikun denikun unggimbi kai
デニクン デニクン 送 る ぞ。

denikun denikun weceku de baime
デニクン デニクン 神霊 に 請う,

denikun denikun bujan be šurdere
デニクン デニクン 林 を めぐる

denikun denikun amba bulehun 〔V, S : bulehen〕
デニクン デニクン 大 鶴。

denikun denikun hūdun hahi
デニクン デニクン いそぎ はやく

denikun denikun mini eihen 〔eigen〕 be
デニクン デニクン 私の 夫 を

denikun denikun šoforome jafafi
デニクン デニクン 摑んで 捕え,

denikun denikun fungtu[75] hoton de
デニクン デニクン 酆都 城 に

denikun denikun maktafi enteheme
デニクン デニクン 放り投げ，永久に

denikun denikun tumen jalan de
デニクン デニクン 萬 世 に

denikun denikun niyalmai beyede
デニクン デニクン 人間の からだに

denikun denikun banjiburakū obuki
デニクン デニクン 生れさせないようにするのだ。

denikun denikun
デニクン デニクン

hūlara de amba bulehun〔V, S:bulehen〕deyeme genefi uthai
と叫ぶ と，大 鶴が 飛んで 行って すぐさま

šoforome jafafi deyeme fungtu hoton de maktaha be saman
爪で摑み 取り，飛んで 酆都 城 に 放り投げたの を サマンが

66. sabufi den jilgan deyangku be hūlame hendume,
見て，高い 声で デヤンク を となえて 言った。

deyangku deyangku eigen akū de
デヤンク デヤンク 夫が ない ので，

deyangku deyangku encehešeme banjiki
デヤンク デヤンク 人に取入って 暮したい。

deyangku deyangku haha akū de
デヤンク デヤンク 男が ない ので，

deyangku deyangku kangtaršame banjiki
デヤンク デヤンク 昂然と 暮したい。

deyangku deyangku eniye hūcihin〔S : hūncihin〕de
デヤンク デヤンク 母親の 親類 と

deyangku deyangku efime banjiki
デヤンク デヤンク 遊んで 暮したい。

deyangku deyangku se be amcame
デヤンク デヤンク 歳 を 追って，

deyangku deyangku sebjeleme banjiki
デヤンク デヤンク 楽しみ 暮したい。

deyangku deyangku juse akū de
デヤンク デヤンク 子が ない ので，

deyangku deyangku julesi ome banjiki
デヤンク デヤンク 前に向って 暮したい。

deyangku deyangku hala mukūn akū de
デヤンク デヤンク 姓 族が ない ので,

deyangku deyangku hajilame banjiki
デヤンク デヤンク 親しみ 暮したい。

deyangku deyangku asigan〔asihan〕be amcame
デヤンク デヤンク 少年 を 追い,

deyangku deyangku antahašame[76] banjiki
デヤンク デヤンク 賓客となって 暮したい。

deyangku deyangku
デヤンク デヤンク

yayame〔yayadame〕geyeme[(26)] sergudai fiyanggo i gala be
誦念し 太鼓を打ち, セルグダイ フィヤンゴ の 手 を

kutuleme edun i adali efime yabume su i adali sujume
ひき, 風 の ように 戯れ 行き, 旋風 の ように 馳け

yabume jihei
行き 来ながら

67. tuwaci jugūn i dalbate〔S, D: dalbade〕emu taktu be sabubumbi
見ると, 路 の 傍に ひとつの 楼閣 を 見つけた。

weilehengge umesi horonggo saikan bime, sunja hacin i
造りは はなはだ 荘厳 華美 であって, 5 色 に

boconggo tugi borhohobi, nišan saman hanci genefi
色どられた 雲が たなびいていた。 ニシャン サマンが 近 寄って

tuwaci dukai jakade juwe aisin uksin saca etuhe enduri selei
見ると, 門の そばに 2人の 金の 甲 冑 を 着けた 神が 鐵の

maitu jafame ilime tuwakiyahabi, nišan saman hanci genefi
棒を 持ち 立って 守っていた。 ニシャン サマンが 近づいて 行き

baime hendume agusa ere aiba bihe, dolo webi getuken
請うて 言った。「あなた方, ここは 何処 ですか。内には誰がいるので

alambureo serede tere enduri alame taktu de
すか。説明してください」と言うと, その 神は 言った。「楼閣 に

bisire abdaha sain de arsubure, fulhu〔S: fulehe〕saide〔S: sain
いて 葉を よく 芽を出させ, 根 を よく

de〕fusubure〔V, S: fusebure〕, omosi[77] mama tehebi,
茂らせる オモシ ママがおいでになるのだ」。

nišan saman baime hendume mini jihe ildun de mama de
ニシャン サマンは 請うて 言った。「私が 来た ついで に ママ に

hengkileki sembi, yala ombi ojorakū seme
叩頭したい」 と言い,「本当に 出来るのですか出来ないのですか」 と

fonjiha de dukai enduri hendume ombi
たずねる と, 門の 神は 言った。「出来る」

68. sehede nišan saman ilan sefere hoošan, ilan dalhan misun
というと, ニシャン サマンは 3 帖の 紙, 3 塊の 味噌を

baniha bume dosime genehe, jai duka de isinafi tuwaci inu
礼として 与え 入って 行った。第2の 門 に 着いて 見ると また

juwe uksin saca etuhe enduri tuwakiyahabi, nišan saman
2人の 甲 冑を 着けた 神が 守っていた。 ニシャン サマンが

dosime generede esukiyeme ilibufi aibi niyalma balai ere
入って 行くと 怒鳴って 止まらせ「どんな 人間が 妄りに この

duka be dosimbi hūdun bedere majige notašaci[78] 〔D: nushuci〕
門 を 入るのか。早々に 立帰れ。少しでも 進み入れば

uthai tantambi serede nišan saman baime amba
すぐさま 打ち懲らすぞ」というと ニシャン サマンは 請うた。「大

enduri ume jili banjire ehe fainggo 〔fayangga〕 wake
神よ。 決して 怒らないでほしい。兇悪な 霊 魂 ではない。

weihun gurun i nišan saman serengge uthai bi inu
俗世 の 国 の ニシャン サマン というのは 即ち わたしである。

jugūn ildun de bailingga omosi mama de acafi hengkileki
路の 都合 で 慈悲深き オモシ ママ に 会って 叩頭したい」

sembi, juwe enduri hendume tere gese ginggun gūnin oci
と言った。2人の 神は 言った。「その ような 敬虔な 志 なら

dosime genefi hūdun tuci seme alahade nišan
入って 行き, 早く 出て行きなさい」 と 告げたので, ニシャン

saman inu onggolo songkoi baniha basan 〔basa〕 bufi dosime
サマンは 又 前の 通りに 感謝の 礼物を 与え 入って

genehe
行った。

69. ilaci duka de isinafi inu juwe enduri tuwakiyahabi, inu onggolo
第3の 門 に 着くと, 又 2人の 神が 番をしていた。又 前の

songkoi baniha bume dosifi tuwaci taktu de sunja boco sukdun
通りに 礼物を 与えて 入って 見ると, 楼閣 に 5 色の 気が

eldešehebi uce šurdeme sukdun jalukabi geli juwe
光り輝いていた。家門のまわりには 気が 満ち溢れていた。又 2人の

hehe sunja boco ilhangga etuku etufi uce tuwakiyahabi,
女が 5 色の 花模様のついた着物を 着て 家門を 守っていた。

uju funiyehe be gemu den šošome galade aisin hiyanglu be
髪 の 毛 を 皆 高く 編み束ね, 手に 金の 香爐 を

jafahabi, emke menggun i fila jafahabi, emke injeme
持っていた。1人は 銀 の 皿を 持っていた。 1人が 笑って

hendume ere hehe be bi takara adali si weihun
言った。「この 婦人 を 私は 知っている ようだ。 あなたは 娑婆の

gurun nisihai birai dalin de tehe nišan saman wako〔V, S :
国の ニシハイ 河の 岸 に 住む ニシャン サマンではありません

wakao〕, saman sesulefi〔S : sesulafi〕 hendume si ainaha
か」。 サマンは 驚き訝り 言った。「あなたは どんな

niyalma, bi ainame onggoho takarakū serede
人ですか。私は どうしても 忘れてしまって 知りません」 というと

tere hehe hendume si ainu mimbe takarakūnii〔S:takarakū
その 女性は 言った。「あなたは 何故 私を 知らないの

ni〕 bi cara aniya mama tucire de omosi
ですか。私は 1昨 年 疱瘡が 出た 時, オモシ

70. mama mimbe bulhūn〔V : bolgon〕 sain seme gajifi beye
ママが 私を 清らかで 美しい と 連れて来て 自分の

hanci takūrambi muse emu tokso niyalma adaki boo nari
傍近く 召使っています。私共は 或 村荘の 者で, 隣 家の ナリ

fiyanggo i sargan mimbe gaifi juwe inenggi dorgide mama
フィヤンゴ の 妻です。私を 娶って 2 日の 中に 疱瘡が

tucime bucehe kai serede nišan saman teni takafi
出て 死にました」というと ニシャン サマンは やっと 思い出して

ambula urgunjeme absi onggohonii〔V, S: onggoho ni〕seme ucebe
大層 喜こび 「どうして 忘れようか」と言うと 門を

neime bufi dosibuha〔V, S:dosimbuha〕uju tukiyeme wesihun
開いて やって 入らせた。 頭を 上げて 上を

tuwaci orto〔V, S:ordo〕i dulimbade emu sakda mama tehebi
見れば, 亭殿 の 中央に 1人の 老 婆が 座っていた。

funiyehe nimanggi gese šeyen der seme〔der seme šeyen〕[79] sabumbi
髪は 雪の ように 真 白 に 見え,

yasa kumsuhun〔S:kumcuhun〕, angga amba, dere golmin, sencehe
眼は ねじ曲り, 口は 大きく, 顔は 長く, あごは

cokcohūn〔V, S : cokcohon〕, weihe fularfi〔V, S : fularafi〕tuwaci
突き出, 歯は 赤く, 見る事も

ojorakū juwe dalbade juwan funcere hehesi ilihabi, juse
出来ない。両 側に 10人 余りの 女性等が立っていた。子等を

jajihangge〔S: jajahangge〕, tebeliyehengge, ome[80] tonggo ulmirengge,[81]
背負った者, 抱きかかえた者, 絲 で 縫う者,

ajige jui ararengge, ajige jui be iberengge, folho〔S : fulhū〕de
小 児を 作る者, 小 児 を 進ませる者, 大袋 に

teburengge tebumbi, meiherehengge, meiherembi, gamarangge
入れる者は 入れる。肩に擔ぐ者は 擔ぐ。 連れて行く者は

gamambi, gemu šolo akū, šun
連れて行く。皆 いそがしく, 日の

71. dekdere ergi uce be tucimbi, nišan saman sabufi ferguweme
登る 方の 門 を 出て行く。ニシャン サマンは 見て 驚嘆し,

nade niyakūrafi ilan ilan uyun jergi hengkilefi omosi mama fonjime
地に 跪き, 三 三 九 度 叩頭した。オモシ ママは たずねた。

si ai niyalma bihe, bi ainu takarakū, balai ere
「お前は 誰で あったか。私は 何故 知らないのだろう。 妄りに この

bade dosinjimbi sehede nišan saman niyakūrafi
地に 入って来たのか」 と言うと ニシャン サマンは 跪き

ulame[82] ajige niyalma jalan gurun i nisihai birai dalin
伝えて言った。「小 生 は 俗世の 国 の ニシハイ 河の 河岸

de tehe nišan saman serengge uthai ajige niyalma ere emu
に 住む ニシャン サマン というのは 即ち 小 生です。 この 1

mudan hanilame[83] jihe jugūn ildun de enduri mama de hengkileme
度 尋ね 来た 路の 都合 で, 神 婆様 に 叩頭のため

tuwanjiha sehede omosi mama hendume absi onggoho
伺候したのです」と言うと, オモシ ママは 言った。「どうして 忘れようぞ。

simbe banjibure de si fuhali generakū ofi bi
そなたを 生れさせる 時, そなたは 一向に 行こうとしない ので 私は

simbe horšome[84] yekse hetebufi siša hūwaitafi yemcen〔imcin〕
そなたを 脅し, 神帽を 着けさせ, 鈴を 括りつけ, 男手鼓を

jafabufi samdabume efin i gese banjibuha bihe, sini
持たせ, 跳らせ, 遊び のようにして 生まれさせた ものだ。そなた

beye giyan i gebu tucire ton ere bade emu mudan
自身 必らず 名の 現れ出る命数(さだめ)。この 地に(そなたが) 1度

isinjire be mini beye toktobufi sain ehe yabure eiten
来る事 は 私 自身が 定めておいた。善 と 悪とが なす 全ての

72. erun be sabubufi jalan de ulhibukini seme
(その結果としての)刑罰 を 見させ, 世 に 悟らせるように と

toktobuha jai sirame jici ojorakū dade saman, baksi,
定めておいた。 又 つづいて来る事は出来ない。 始に サマン, 学者,

aha mafa ilire, wesihun derengge ojoro, ehe facuhūn
奴僕, 老翁になる者, 高貴にして 名望ある人 となる者, 悪や 亂 を

yabure, bayan yadahūn, hūlha holo, hoošan〔D: hūwašan〕toose〔D :
行う者, 富者, 貧者, 賊 盗, 和尚,

doose〕, giyohoto〔V, S: giohoto〕, arki omire, falin〔D : wali〕neifi
道士, 乞食, 酒 飲み, 奇術を 弄し

jiha efire, hehesi be dufendere〔S: dufedere〕, sain ehe be gemu
博打をうつ者, 女等 に 溺れる者, 善 悪 を 皆

ubaci toktobume unggimbi ere gemu hesebun kai, sefi
此処で 定めて 送り出す。これは 皆 天命であるぞ」と言い,

fejergi niyalma de alame saman be gamafi erun koro, fafun be
下の 者 に言いつけ「サマン を 連れ, 刑 罰, 法度 を

majige tuwabu sehede, uthai emu hehe jifi
少し 見せてやりなさい」と言うと, すぐさま 1人の 女が来て,

saman be hacihiyame yabu mini emgi majige sargašaki
サマン を 促し 「行きなさい。私 といっしょに 少し 遊びましょう」

〔S : sarašaki〕seme saman dahame sasa genefi tuwaci emu bujan
と サマンに 従い 共に 行って見れば 1 樹林が

arsuhangge saikan bime huweki sunja boco borhoho bi
繁 り も 美しく 肥沃にして 5 色の層に積重なっている。

saman fonjime ere ai bujan serede alame
サマンは 問うた。「これは 何の 林ですか」と言うと, (女は)告げた。

suweni jalan gurun
「あなたの 俗世の 国

73. de mama fudere de bolgo ginggun akū, morin ihan jeke akū
に ママが 送る 時, 清浄 恭敬で ない 馬や 牛を 食べなかった

ningge fodoho gargan be bilafi fudehe[85] turgunde arsuhangge sain,
者は 柳の 枝 を 折って 送る 故に 繁りが 良い。

juse i mama ilha inu sain, tere bujan arsuhangge luku akū
子等 の ママの 花 も亦美しい。その 樹林の 繁りが 稠密で な

bime eden dadan ohongge suweni weihun gurun mama
く，まばらに 缺けているのは あなた方の 娑婆の国に ママが

fuderede fodoho gargan ihan morin jeke ningge be
送る時，柳 の 枝 を，牛 馬 を 食べる 者 を（送るために）

baitalaha turgunde juse ilha ehe bime erun sui hūlambi, ere
用いた からである。子等の 花は 悪く して 刑 罰を 呼ぶ。これは

gemu iletu obume tuwaburengge geli yabume šun
皆 明らかに して(そなたに) 見せるものである」。又 行って 日の

dekdere ergide emu amba boo dolo emu amba tohoroko
出る 方の 1軒の 大きな 家の 中に，ひとつの 大きな

〔V, S:tohorokū[86]〕 fuhešerede dorgici eiten ujima, feksire gurgu,
整穀轤が 転がっていた。内から 全ての 家畜，馳ける 獣，

deyere gasha, nimaha, umiyaha jergi ergengge feniyen feniyen,
飛ぶ 鳥，魚，虫 などの 生き物が 1群 1群

feksime, deyeme tucirengge lakcan akū, erebe saman sabufi
走り 飛び 出して来て 絶え間が ない。これを サマンが 見て

fonjire jakade alame ere eiten ergengge be banjibure ba
たずねた ので 告げた。「これは あらゆる 生き物 を 生み出す 所

inu, geli yabume
です」。又 行って

74. tuwaci emu amba hutu[87] 〔D:hoton〕 furdan duka be lakcan akū
見ると，ひとつの 大きな 城の 関 門 を 絶え ず

hutu fainggo〔fayangga〕 yabumbi, dolosi tuwaci fungtu hoton
鬼 と 精霊とが 通り過ぎて行く。内を 見ると 酆都 城

i sahaliyan talman borhohobi, donjici dolo hutu songgoro
の 黒い 霧が たちこめていた。聞けば 中で 鬼の 泣く

jilgan ambula bi, geli ehe indahūn i gašan, šurdeme
声が 大きく聞こえた。又 悪い 犬 の 町があった。周囲で

niyalmai yali be indahūn tatarame jembi hūlimbure ebubun[88]
人 の 肉 を 犬 が 引裂いて 食べている。惑乱した 下程 の

boo i dolo koro gosihūn 〔V, S : gosihon〕 be hūlame songgoro
間 の 中では，怨み 苦しみ を わめき 泣く

jilgan na durgidumbi 〔V, S: durgedumbi〕, geli genggiyen buleku
声が 地に 鳴り響いている。 又 明るい 鏡の

alin, farhūn buleku hada jergi bade, sain ehe erun be getuken
山，暗い 鏡の 峰 などの 所では，善 悪の 刑罰 を 明白

i faksalambi, geli emu yamun be sabumbi, tanggin de emu
に 選り分けている。又 1 役所 を 見ると, 堂 に ひとりの

hafan tefi geren fainggo〔V, S: fayangga〕be beidembi, wargi
役人が 坐し, 諸 霊魂 を 審問している。 西

ashan boode lakiyahangge hūlha tabcin jergi erun niyalma sa
側の 房に 吊してあったのは 竊盗 掠取 などの 罪 人 等

be horihabi, dergi hetu boode horihangge ama eme
を 監禁してあった。東の 側 房に 監禁してあったのは, 父 母

de hiyoošun akū, eihen〔eigen〕sargan jurgan akū,
に 孝を 尽くさず, 夫 妻の 節義 なき

75. urse be selgelehebi[89], geli tuwaci ama eme be toore tantaha
者共 に 首枷をはめてあった。又 見れば 父 母 を 罵り 打った

ningge be nimenggi mucen de carume erulembi, šabi
者 を 油の 鍋 で 揚げて 処刑している。弟子（であり

šefu be hūlahame〔S, D : hūlhame〕toohangge be tura de
ながら）師傅 を ひそかに 罵った者 を 柱 に

hūwaitafi gabtame erulembi, sargan eigen be
縛りつけ 箭で射て 処刑している。 妻（でありながら） 夫 を

hatarangge be faitarame erulembi, doose hehe de
忌み嫌う者 を 切り刻み 処刑している。道士（でありながら）女 に

latume yabuhangge ging be natahūraha〔S: nantuhūraha〕seme ilan
姦淫を 行う者は, 経典 を 汚した とて 3

gargan šaka i šakalame erulembi, bele ufa sisabume talahangge[90]
枝の 刺股 で 刺して 処刑している。米や 粉を こぼして 伸ばす者

be hujurku〔V, S : hujureku〕mose〔V, S : moselakū〕de gidame
を 碾 磑 で 碾いて

erulembi habšan be belehe, holbon be
処刑している。訴訟を（おこし）人をいつわりおとしいれ, 縁組 を

efulehe ningge be sele futa be fulgiyan šerebufi〔K : šerembufi〕
毀した 者 を, 鐵 縄 を 赤く 焼き（身体を）焼き焙る刑に

halabume erulembi, hafan tefi ulintuhe ningge be dehe i yali
処している。 官に あって 賄賂を使う 者 を 釣針 で 肉

be deheleme erulembi, juwe eigen gaihangge be faitakū
を 釣り上げて 処刑している。 2人の 夫を 取った者 を 鋸で

faksa hūwalame erulembi, eigen be toohangge yelenggu
ごしごしと 挽き割って 処刑している。夫 を 罵った者は

〔S : ilenggu〕 be faitame erulembi, uce fangkara ningge be
舌 を 切り 処刑している。房門を 打ち倒す 者 を

gala be hadame erulembi, hūlhame gigun 〔S : gisun〕
手 を 釘づけにし 処刑している。ひそかに 言葉を

76. donjirengge be šan be fade hadame erulembi, hūlha holo
(盗み) 聞く者 を 耳 を 窓に 釘づけにし 処刑している。賊 盗

be yabuhangge selei mukšan i tantame erulembi, hehe
を 行った者は 鐵の 棍棒 で 打ち懲らす刑に処している。 女で

beye bolhūn 〔S : bolgo〕 akū giyang ula de ebšehe 〔S : ebišehe〕
身を 清浄 でない 河 川 で 沐浴した

ningge, ice tofohon inenggi de natuhūn 〔S : nantuhūn〕 be ofoho
者や, 初日, 15 日 に 汚濊 を

〔S : oboho〕 ningge be duranggi muke be omibume erulembi,
洗った 者 は 濁った 水 を 飲ませる 刑に処している。

sakdasi sabe hirahangge be yasa be deheleme erulembi,
老人 等を 横目で睨む者 は 目 に 鈎をかける 刑に処している。

anggasi, sargan jui sebe dufendehe 〔S : dufedehe〕 ningge be tuwa
寡婦, 女 児 等に 姦淫を犯した 者 は 火

tura de nikebume halabume erulembi, daifu okto
柱 に 倚りかけて 焙る 刑に処している。 大夫 (医者) で 薬を

fudasi omibufi bucebuhe ningge, daifu i hefelii 〔V, S : hefeli〕
あやまり 飲ませ 死なせた 者は, 大夫 の 腹

be secime erulembi, hehe eigen baiha, hūlhame latume
を 割き開く 刑に処している。 女が 夫を 取り ひそかに 姦淫を

yabuhangge be suhe ci yali be sacime erulembi, geli tuwaci
行った者 は 斧 で 肉 を 切る 刑に処している。又 見ると

emu amba omo de aisin menggun dooha〔V, S:doohan〕 cahabi,
ひとつの 大 池 に 金 銀の 橋が 架けてある。

dele yaburengge gemu sain be yabuha hūturingga urse, tuišun
上を 行く者は 皆 善 を 行った 福のある 人々であり,

〔S : teišun〕 sele ciyoo 〔K : kiyoo〕 de
真鍮と 鐵の 橋 を

77. yaburengge gemu ehe be yabuha urse be hutu šaka
行く人は 皆 悪 を おこなった 人々で, (彼等) を 鬼が 刺股

gidai i gidalame tuhebufi meihe jabjan be šeribumbi, dooha
や槍 で 突き刺し 落し, 蛇 蟒 に 脅させている。

〔V, S:doohan〕 ujande ehe indahūn alifi niyalmai yali senggi
橋の 端に 悪い 犬が 待ち受けて，人の 肉 血を

jeme omime kemuni niosihūn[91] 〔D : miosihūn〕 serakū 〔D : sarakū〕
食べ 飲み，しばしば 邪悪は (わたしの)知った事ではない

sembi, dooha 〔V, S : doohan〕 i dalbade emu pusa enduri
と言っている。 橋 の 傍に 1 菩薩 神が

den tefi gala de nomun be jafafi hūlame donjibumbi, tafulara
高く 坐し，手 に 経巻 を 持ち 読んで 聞かせている。 諫告の

bithei gisun ehe be yabuci bucehe gurun de erun sui hūlambi,
書の 言葉 「悪 を おこなえば 冥 府 で 刑 罪を 高誦す。

sain be yabuci erun hūlarakū bime uju jergi niyalma fucihi
善 を おこなえば 刑を 誦せず して，第1等の 人は 仏

ejen tembi, jai jergi gung[92] i dolo banjinambi, ilaci jergi gurun
主(の位に)就く。第2等は 公 の 中に 生れ行く。 第3 等は 国の

efu taiši hafan jergi tembi, duici jergi jiyanggiyūn amban
駙馬，太師，官員 等(の位に) 就く。第4 等は 将軍， 大臣に

tembi, sunjaci jergi bayan wesihun ombi, ningguci jergi baisin
就く。 第5 等は 富 貴 となる。第6 等は 白丁

niyalma giyohoto 〔giohoto〕 de banjinambi, nadaci jergi eihen lorin
人や 乞食 に 生れゆく， 第7 等は 驢馬， 騾，

78. morin ihan jergi banjinambi, jakūci jergi gasha gurgu de banjinambi,
馬， 牛 等に 生れ行く。 第8 等は 鳥， 獣 に 生れ行く。

uyuci jergi aihama〔D:aihūma〕 nimaha ubaliyame banjinambi, juwanci
第9 等は 鼈(すっぽん) 魚に 転 生する。 第10

jergi beten, umiyaha yerhu 〔V, S : yerhuwe〕 jergi ubaliyame
等は みみず，蟲， 蟻 などに 転

banjinambi, seme den jilgan i hūlame donjibume tafulambi, geren
生する」 と 高い 声 で 読み 聞かせ 戒める。 諸

erunbe nišan saman tuwame wajifi amasi taktu de jifi
刑罰を ニシャン サマンが 見 終わり，もとにもどり 楼閣 に 来て

omosi mama de hengkileme acafi, mama alame jalan gurun
オモシ ママ に 叩頭して 会った。ママは 言った。「俗世の 国

de isinaha manggi geren urse de ulhibume ala sefi, uthai
に 着いた なら， もろ 人 に 暁諭し 告げよ」と言った。そこで

hengkileme fakcafi nišan saman sergudai be kutuleme da
叩頭し 別れた。ニシャン サマンは セルグダイ を 連れ， もと

jihe jugūn ci jime fulgiyan bira dalin de isinjifi, bira ejin〔ejen〕
来た 路 を 来て 紅 河の 岸 に 着いた。 河の 主

de basan〔basa〕 bume yemcen〔imcin〕 be bira de maktafi saman
に 礼物を 与え 鼓 を 河 に 投げ入れ, サマンは

sergudai be gaime ninggude ilifi doome cargi dalin de
セルグダイ を 連れて(鼓の) 上に 立ち,渡り, 彼 岸 に

isinjifi, geli yabume goidahakū
着いた。又 行くこと 幾何もなく

79. doholo〔doholon〕 laihi〔laihūn〕 dokūn〔dogon〕 de isinjifi onggolo
跛の 無頼者の 渡し場 に 着いた。以前に

yabuha be dahame takara jakade hendume saman isinjiha yargiyan
来た の で 知っていたので 言った。「サマンが 着かれた。本当

i mangga saman seci ombi, baldu bayan i
に (霊力の)秀れた サマン と言うことができよう。バルドゥ バヤン の

jui sergudai fiyanggo be bahafi gajihangge ecehen〔S:encehen〕
子 セルグダイ フィヤンゴ を 得て 連れて来られた。 才幹

muten ajigen akū ereci ele gebu tucimbi kai
能力は なみなみでは ない。これより ますます 名が 現れ出ましようぞ」

sefi weihu de tafa seme hacihiyafi saman sergudai
と言い「丸木舟 に お乗りなさい」と 促した。 サマンはセルグダイ

be gaime weihu de tafame tefi doholo〔doholon〕 laihi〔laihūn〕
を 連れて 丸木舟 に 乗り 坐った。 跛の 無頼者は

hontoho selbi selbime dartai dome〔doome〕 dalin de isinjifi
半ば(折れた) 櫂を 漕いで たちまち 渡り, 岸 に 着き

weihu ci wasifi basan〔basa〕 bume baniha arafi fe jugūn be
丸木舟 を 降り 礼物を 与え 感謝 し, もと来た 路 を

jafame yabume goidahakū baldu bayan i boode isinjifi,
とって 行き, しばらくして バルドゥ バヤン の 家に 着いた。

da jari nari fiyanggo uthai orin damgin〔V, S:damjan〕[45]
かしらの 助禱巫 ナリ フィヤンゴは すぐさま 20 荷の

muke be oforo šurdeme dulaha〔doolaha〕, dehi hunio muke be dere
水 を 鼻の まわりに かけた。 40 桶の 水 を 顔の

šurdeme dulafi〔S : doolafi〕 hiyan be jafafi baime aitubume
まわりに かけた。 香 を 摑み, 祈り願い 救い

80. gelabure gisun i yayahangge〔V, S : yayadahangge〕,
よび醒ます 言葉 で 誦念した言葉。

ke keku[93] keku ere yamji
ケ ケク ケク 今 宵,

keku dengjan la be
ケク 灯火, 蠟燭を

keku gida[94] nufi 〔S : gidanufi〕
ケク 消し,

keku ainaha algin
ケク どんな 名声,

keku weinehe[95] welgin
ケク 誰の 名声,

keku halai hashūri[96]
ケク 姓の ハスフリ,

keku yala yashūri
ケク 真に ヤスフリ,

keku bayari 〔TS : bayar〕 hala
ケク バヤル 姓の,

keku abdaha de arsuha
ケク 葉 に 芽が出た。

keku fulehe de fusuhe 〔V, S : fusehe〕
ケク 根 が 繁った。

keku sergudai fiyanggo
ケク セルグダイ フィヤンゴ,

keku abalame genefi
ケク 狩に 行き。

keku nimekulefi bucehe
ケク 病に罹り 亡くなった。

keku erei turgunde
ケク この 故に,

keku ilan saman ilgaci
ケク 3人の サマンが 弁別したら,

keku duin saman dekeneci[97] 〔K : dehereci〕
ケク 4人の サマンが 捜し求めたら,

keku ere fainggo 〔fayangga〕 be
ケク この 霊魂 は

keku bucehe gurun
ケク 冥 府の

keku ilmun han
ケク　閻羅 王が

keku gamaha　　sembi
ケク 連れて行った という。

keku erei turgunde
ケク この 故に

keku nisihai　birai
ケク ニシハイ 河の

keku dalin de tehe
ケク　岸　に 住む,

keku ursu〔V, S : urse〕gurun de
ケク　　人々の　国　に

keku uju　　tucike
ケク 頭角の 現れ出た,

keku amba gurun de
ケク　大　国　に

keku algin　tucike
ケク 名声の 現れ出た,

keku ayan hiyan be
ケク　芸　香　を

keku jafame gaifi
ケク　手に　取り,

keku alin be dabame
ケク　山　を　越え

81. keku amcame　genefi
ケク 追い求めて 行き,

keku algin　　be　gaihade
ケク 名声(ある人)を 探し得た時,

keku jorime　tuwaha
ケク (試みに) 予示して(占って)もらって見たところ,

keku adališara　　jakade
ケク 彷彿とした(当った) ので,

keku baime gajifi
ラク 請うて 連れて来た。

keku ineku yamji de
ケク　その　晩　に

keku farhūn bade
ケク 幽暗の 所で

keku fayanggo be fargaha
ケク 霊魂 を 追い求めた。

keku ehe bade
ケク 悪い 所に

keku ergen be ganaha bihe
ケク 命 を 取りもどしに 行った。

keku amasi marime jifi
ケク 戻り 帰って 来て,

keku lelii〔V, S : leli〕fodoho
ケク 広々とした 柳,

keku da gargan de
ケク 本の 枝 に

keku dalaha daimin〔V, S : damin〕
ケク かしらとなった 鵰(いぬわし)よ。

keku adame gargan de
ケク 並んだ 枝 に

keku alha〔TS. alaha〕daimin〔damin〕
ケク 花紋の 鵰よ。

keku alin be šurdere
ケク 山 を めぐる

keku aisin inggalii〔V, S : inggali〕
ケク 金の 鶺鴒よ。

keku mukden[60]〔K : mukderhun〕be šurdere
ケク 沙丘 を めぐる。

keku menggun inggalii〔inggali〕
ケク 銀の 鶺鴒よ。

keku taran〔S : targan〕tasha
ケク 彪よ, 虎よ。

keku oniku〔ongnika〕[59] lefu
ケク 脆牲よ, 熊よ。

keku jakūn da jabjan
ケク 8 尋の 蟒(うわばみ)よ。

keku uyun da meihe
ケク 9 尋の 蛇よ。

keku cakūra〔S : cakūran〕moo falga
ケク　　檀　　木の 叢の

keku jakūn juru manggi〔TS : manggisa〕
ケク　8　対の　　あなぐまよ。

keku mang〔mangga〕moo falga
ケク　橡(くぬぎ)の　　叢の

keku juwan juru manggi〔TS : manggisa〕
ケク　10　対の　　あなぐまよ。

keku weijubume jiki
ケク　蘇らせに　来てくれ。

keku aitubume gaiki
ケク　助け　　連れて来てくれ。

keku gele〔D : gela〕gete
ケク 目を覚ませ,　目覚めよ。

keku
ケク

sefi　　nišan　　saman
と言った。ニシャン サマンは

82. šurgeme deribufi gaitai　　ilifi　yayame〔yayadame〕deribuhe
痙攣し　始め　たちまちにして 立ち　　誦念し　始めた。

yabuha　babe gamaha　　turgun　be tucibume　yayara〔yayadara〕
行なった 事と 連れて来た 一部始終 を 述べた　　誦念の

gisun,
言葉。

deyangku deyangku geren niyalma jari　　donji
デヤンク　デヤンク　皆　　様,　　助禱巫よ, お聞き。

deyangku deyangku baldu　bayan　sini　beye
デヤンク　デヤンク バルドゥ バヤン, そなた 自身,

deyangku deyangku emke emken　donji　bai
デヤンク　デヤンク ひとつ ひとつ お聞き なさい。

deyangku deyangku sini　　jui be
デヤンク　デヤンク そなたの 子 を

deyangku deyangku aisin hiyanglu de
デヤンク　デヤンク　金の　香爐　　に

deyangku deyangku tebume gajiha
デヤンク　デヤンク　載せて 連れて来た。

deyangku deyangku šoforo de šoforome
デヤンク デヤンク ひとつまみ に つまんで

deyangku deyangku gajime jihe kai
デヤンク デヤンク 連れて 来た ぞ。

deyangku deyangku boobai oho de
デヤンク デヤンク 宝物 なの で

deyangku deyangku hafirame gajiha
デヤンク デヤンク 小脇に夾んで 連れて来た。

deyangku deyangku bucehe beyede
デヤンク デヤンク 死んだ 体に

deyangku deyangku weijubuhebi
デヤンク デヤンク 生命を蘇らせた。

deyangku deyangku fayangga〔fayangga〕be oron beyede
デヤンク デヤンク (生きた) 魂 を 陰魄の 身に

deyangku deyangku singgebume sindahabi
デヤンク デヤンク 滲み こませた。

deyangku deyangku omosi mama de baiha
デヤンク デヤンク オモシ ママ に 請い願い,

kerani kerani ereci amasi
ケラニ ケラニ「これより 以後,

kerani kerani nimeku yangšan
ケラニ ケラニ 病気も 病気の気も

kerani kerani akū obume
ケラニ ケラニ なく なって

83. kerani kerani banjikini sehe
ケラニ ケラニ 暮すように」と言った。

kerani kerani uyunju se jalgan
ケラニ ケラニ 90 歳の 寿命の

kerani kerani ulgun〔D : urgun〕be tolome
ケラニ ケラニ 喜び を 数え,

kerani kerani uyun juse ujikini
ケラニ ケラニ 9人の 子を 養うように。

kerani kerani gamaha ilmun han de
ケラニ ケラニ(彼を私の所に) 連れて来た 閻羅 王 に,

kerani kerani coko indahūn be
ケラニ ケラニ 雞, 犬 を

kerani kerani baili de werihe
ケラニ ケラニ お返しに 残した。

kerani kerani basan 〔basa〕 jergi be werihe
ケラニ ケラニ 礼物 など を 残した。

kerani kerani omosi mama de
ケラニ ケラニ オモシ ママ に

kerani kerani hengkileme acaha
ケラニ ケラニ 叩頭して 会った。

kerani kerani sini jui de
ケラニ ケラニ そなたの 子 に,

kerani kerani geli enen baiha
ケラニ ケラニ 又 子孫を 請うた。

kerani kerani jalan de ulhibure
ケラニ ケラニ 世 に 告げ知らせる。

kerani kerani mama eršere de
ケラニ ケラニ ママ（福神）に仕える には,

kerani kerani ginggun bolgo i
ケラニ ケラニ 恭敬 清浄 であれ。

kerani kerani mama ilha sain
ケラニ ケラニ ママ（福神）の 花は 美しい。

kerani kerani damu sain be yabu
ケラニ ケラニ ただ 善 を 行え。

kerani kerani ehe be yabuci
ケラニ ケラニ 悪 を 行えば,

kerani kerani eiten erun iletu
ケラニ ケラニ 全ての 刑罰は 明らかになり,

kerani kerani gemu getuken sabuha
ケラニ ケラニ ことごとく 明白に 現われる。

kerani kerani mini eigen mimbe
ケラニ ケラニ 私の 夫が 私を

kerani kerani aitubu seme
ケラニ ケラニ 助けよと 言って

84. kerani kerani baire jakade
ケラニ ケラニ 頼んだ ので,

kerani kerani mini gisun oci
ケラニ ケラニ 私の 言葉 は

kerani kerani yali sube niyaha
ケラニ ケラニ「肉 も 筋 も 朽ち果て

kerani kerani weijubure de mangga
ケラニ ケラニ 蘇生 は むずかしい」。

kerani kerani mini eigen fancafi
ケラニ ケラニ 私の 夫は 憤り,

kerani kerani nimenggi mucen de
ケラニ ケラニ 油 鍋 で

kerani kerani mimbe carume wambi
ケラニ ケラニ 私を 揚げ 殺す。

kerani kerani erei turgunde
ケラニ ケラニ この 故に

kerani kerani mini wecen šoforofi
ケラニ ケラニ 私の 精霊が つまみあげ,

kerani kerani fungtu hoton de
ケラニ ケラニ 酆都 城 に

kerani kerani maktafi enteheme
ケラニ ケラニ 投げ降ろし, 永久に

kerani kerani niyalmai beye banjiburakū
ケラニ ケラニ 人の 身体に 生れさせなくした。

kerani kerani geli geren hutu
ケラニ ケラニ 又 全ての 幽鬼の

deyangku deyangku fainggo〔fayangga〕se
デヤンク デヤンク 霊魂 等が,

deyangku deyangku aitubu seme
デヤンク デヤンク 助けよ とて

deyangku deyangku siran i baime
デヤンク デヤンク つぎつぎ と 請うて

deyangku deyangku jugūn be heturefi
デヤンク デヤンク 路 を 遮り

deyangku deyangku bairengge jilaka〔S : jilakan〕
デヤンク デヤンク 請うたことは 憐れであった。

deyangku deyangku jaci labdu kai
デヤンク デヤンク (数も) 甚だ 多 かった。

deyangku deyangku labdu basan〔basa〕werihe
デヤンク デヤンク (私は) 多くの礼物を残した。

deyangku deyangku geren dekdehe〔TS : dendehe〕
デヤンク　デヤンク　全て　分け与えた。

85. deyangku deyangku teni waliyame jihe
デヤンク　デヤンク（私はそれ等を）やっと棄てて来た。

deyangku deyangku
デヤンク　デヤンク

sefi uthai oncohūn〔S: oncohon〕 fahabuha be da
と言い　すぐさま　仰向けに　倒れた　ので，　かしらの

jari geli hiyan ci oforo šurdeme fangsifi〔K : fangšafi〕 teni
助禱巫が 又　香　を 鼻の まわりで 焚くと　やっと

gelahabi, amala saman beye sergudai fiyanggo oron
気が付いた。その後で サマン 自身 セルグダイ フィヤンゴの魂のぬけた

beyede fainggo〔fayangga〕 be feshure[98]〔K : fusure〕 jakade
身体に　魂　を　灑ぎこんだ　ので（彼は）

dartai aitufi bekene〔S : bekiken〕 luduru〔V, S : ludur〕
たちまち 息を吹きかえし　しっかりした　張りの

sere jilgan gisun gisureme muke emu moro bureo serede,
ある 声　音で　言った。「水を　1　杯　ください」と言ったので

gajifi buhe manggi omifi hendume emu amba amu amgafi
持って来て やる　と　飲んで 言った「長い　間　眠り　こんで

kejine tolgiha sefi uthai ubaliyame tefi, booi urse
沢山　夢を見た」と言い，すぐさま 身体をおこして坐った。家の 人々は

urgunjefi, teni turgun be sergudai de alara jakade teni
喜こび，　はじめて 一部始終 を セルグダイ に 告げた ので（彼は）

bucehe be safi nišan saman gehede hengkileme
はじめて死んだ事　を　知り，　ニシャン　サマン 女に　叩頭し

banihalara de baldu bayan falanggo〔S: falanggū〕 dume injefi
感謝する　と，バルドゥ バヤンは　掌を　打って 笑った。

inu dorolome hendume yargiyan i enduri saman, gehe kesi de
又　礼をして 言った。「まこと　に 神の　サマン 女。 恩寵を 以て

mini jui dahūme
わが 子を また

86. aituha, akū bici fulehe lakcame bihe seme beye
甦らせた。さもなくば　根は　絶えていたでしょう」と言い，　自身の

etuku be jafafi saman de etubume cusile gu tetun i hūntaha〔V,S:
着物　を 取り サマン に 着せ，　水晶と玉の器　の

hūntahan〕de jalu nure tebufi niyakūrafi aliburede, nišan
盃 に なみなみと 酒を つぎ，跪き 献呈した時，ニシャン

saman hūntaha〔hūntahan〕be alime gaifi sekiyembume〔V, S:
サマンは 盃 を 受け 取り 1滴残らず

sekiyebume〕omifi karu doro arame hendume ere inu yuwan wai
飲みほし， 返 礼 して 言った。「これ また 員 外の

hūturi de teni muyahūn icihiyame ohobi, ere uthai juwe ergide
福徳 で やっと 完全に 処理し えました。これ 即ち 2 者

geren sasa gemu hūturi kai, yuwan wai geli amba bolosu
諸 共に 皆 福徳というものです」 員 外 も 又 大きな 玻璃の

hūntaha de jalu nure tebufi jari de inu alibume hendume
盃 で なみなみと 酒を つぎ，助禱巫 に も 献じて 言った。

fulu singiyabuha〔S:singgiyabuha〕bilga〔S: bilha〕monggo〔monggon〕
「あまり 酷く痛む 咽 喉を

akšabuha nure ci majige gidame omireo serede, nari
臭い 酒 で ちょっと 鎮める為に飲んで下さい」と言うと，ナリ

fiyanggo nure be alime gaifi omimbime hendume ai joboho
フィヤンゴは 酒 を 受け 取り 飲みながら 言った。「何の辛労など

babi, tehe baci aljaha akū de joborakū
ありましょうぞ。坐っていた 所から 離れなかった ので 苦労しなかっ

gese,
たようだ。

87. aika joboci saman gehe〔gege〕fulu joboho
もし(私が)苦労したとすれば，サマン 女 様は もっと お苦しみに

bucehe gurun de emu marin〔S: mari〕[99] yabuha be dahame
なった。 冥 府 に 1 度 行かれた の だから

ambula šadaha dere, saman injeme hendume fiyanggo
大変 お疲れになったでしょう」。サマンは 笑って 言った。「フィヤンゴ，

deo jari si donji dekdeni[100] yoro gisun de ilan fun
弟，助禱巫よ。そなたは聞きなさい。諺， 謡 言 に『3 分の

saman seci, nadan fun i sain jari akū oci banjinarakū
サマン とても，7 分 の 善い助禱巫が いなければ 成り立たない』

sehebi kai, geren donjifi gemu ambarame injecehe bi, amala
と言ってあるよ」。人々は 聞き，皆 大層 笑っていた。 後に

lo yuwan wai ahalji bahalji juwe aha be hūlafi alame
老 員 外は アハルジ バハルジの 2 従僕 を 呼んで 言いつけた。

ihan morin honin ulgiyan jergi adun data sade gemu
「牛, 馬, 羊, 豚 等の 牧群の 頭 たちに ことごとく

ala, adun tome dulin dendefi belhe saman gehe〔gege〕
告げなさい。牧群 毎に 半分を 分け 備えなさい。サマン 女の

baili de karulame beneki seme uthai sarin belhefi
恩 に 報いる為に送りたい」と言い, すぐさま 宴会の 準備をし,

ambarame omime sarilara de gemu ambula soktoho amala deren〔dere〕
大いに 飲 宴する 時, 皆 大いに 酔った。その後, 宴 卓

be bederebufi sejen morin belhefi, jiha menggun etuku adu jergi be
を 片付け, 車 馬を 準備し 銭, 銀, 衣 服 等 を

inu dulin dendeme
又 半分 分けて

88. banjibufi sejen de tebufi, jari de etuku emu yohi yalure
ひと纏めにし, 車 に 載せた。助禱巫 には 衣服 ひと 揃い, 乗

akta emke, enggemu hadala yongkiyan, menggun juwe tanggū
馬(騸馬) 1 頭, 鞍, 轡, 全揃い, 銀 200

yan banjibufi saman jari sasa jaka suwaliyame boode
両を 纏め, サマンと助禱巫共どもに (贈) 物も 併せて 家に

benebuhe amala nišan saman ambula bayan oho nari
送らせた。その後 ニシャン サマンは 大変 富裕となった。ナリ

fiyanggo i emgi haji[101] baita be inu nakafi beyebe toktobume
フィヤンゴ と 共に 情 事 を また 止め, 身持ちを 定め

tob tondo obufi banjimbi demun i dufen〔V, S : dufe〕 baita be
公正 公平 に 暮した。異様 な 淫 事 を

lasha obuhabi, saman geren erun hacin be sabufi teni mujin
きっぱりと断った。サマンは 様々な 刑罰 を 見て 始めて 心が

nitarahabi, emu fi de julergi miosihūn ehe jergi be toncihiyame
平静となった。ひと 筆 で 以前の 邪 悪 等 を ひとつ残らず

〔S : tongkime[102]〕 arahabi, deranggi〔V, S: duranggi〕 muke singifi〔V,
はっきり 書いた。 濁った 水を

S: singgefi〕 genggiyen bolgo oho muke gese, ere babe bithe
濾過し, 清明 清浄に した 水の ようだ。この 事を 書に

donjire agutasa, gehetese kimcici ombi kai, nišan saman
聞く 諸紳士等 諸婦人等, 詳察 するに足る事です。ニシャン サマン

i emge〔S: emeke〕 amala toksoi urse leolecerengge ere mudan
の 姑は 後に 村荘の 人々が 共々に語り合い「この 度,

saman hanilame[83] genehe bade ini eigen be sabufi
サマンが 尋ねて 行った 所で 自分の 夫 に 会った。

89. inbe〔imbe〕aitubu seme baiha, aika mimbe aituburakū oci
彼は 助けてくれ と 請うた。もしも 私を 助けなけれ ば,

nimenggi mucen de ini sargan be carume wambi sehede
油 鍋 で 彼の 妻 を 油で揚げて殺してしまうと 言っ

nišan saman ini weceku de ertufi, eigen be šoforofi
たので, ニシャン サマンは 自分の 神霊 に 頼み, 夫 を 摑み,

fungtu hoton de maktaha sembi, ere jergi gisun be amala saman
酆都 城 に 投げた」 という。これ らの 話 を 後に サマン

i emge〔S: emeke〕donjifi jili banjifi urun be hūlafi da turgun
の 姑が 聞き 怒りを発し, 嫁 を 呼んで もとの 理由

be fonjihade urun i gisun ini beye mimbe aitubu sembi,
を 問い質した時, 嫁 の 言葉「彼 自身 私を 助けてくれと言いました。

mini gisun yali niyaha sube lakcaha aituburede mangga
私の 言葉 『肉は 腐り, 腱は 切れ, 助けるのは むずかしい』

sehede, uthai urun be nimenggi mucen de carume wambi
と言うと, すぐさま 嫁 を 油 鍋 で 揚げ 殺す

serede mini weceku šoforofi fungtu hoton de maktahangge
と言ったので, 私の 神霊が 摑み, 酆都 城 に 投げこみました。

yargiyan sehede emge〔S : emeke〕hendume tuttu oci si
本当です」と言うと, 姑は 言った。「それ なら お前は

eigen be dahūme waha kai, si olime jailaci
夫 を 2度 殺したのだぞ。お前は 路をよけて避けて通ることが

ai ojorakū, absi gūnin mangga sefi, gemun hecen
何故 出来なかったのか。何と 心根の 頑なことか」と言い, 京 城

de
に

90. genefi ioi ši hafan de habšafi, yamun ci nišan saman be
行き 御 史 官 に 訴えた。役所 から ニシャン サマン に

selgiyeme gajifi dahin jabun gaici ini emge〔S: emeke〕
伝諭し 連れて来て 繰返し 供述を 取るが, 彼女の 姑の

alibume habšaha bithe ci encu akū ofi, jabun be bukdarun
呈出した 訴 状 と 異なら ない ので, 供述 を 書巻に

weilefi da turgun be tucibume ejen de wesimbuhede hese
書きなし, もとの 縁由 を 書き出し, 主上 に 奏聞した時, 旨あり

ambula jili banjifi, beidere jurgan de afabufi ini weile de
「大いに 怒りを 覚える。刑 部 に 委し 彼女の 罪 に

teherebume kooli songkoi icihiya sehe, jurgan ci wesimbuhe
相応するよう 例に 照らし 処理せよ」と仰せられた。部 から 上奏した

gisun buhime〔S: buhiyeme〕uladuha 〔ulanduha〕baita de
言葉 「 揣度嫌疑し 伝えた 事柄 に対し,

nišan saman gidahakū be tuwaci inu emu hehei i dolo
ニシャン サマンが 隠匿しないのを 見れば, 又 女性 の 中の

baturu seci ombi, emgeri jabun alime gaiha be dahame ergen
勇者 と言えよう。すでに 供述を 受け 取った の だから, 命を以て

toodabuci inu ombi, sehede taidzung hūwangdi hese wasimbume
償わせるも 又 可也」と言うと, 太宗 皇帝は 旨を 降し,

uthai ini eigen i songkoi ceni gašan de bisire hocin〔hūcin〕
「即ち 彼女の 夫 と 同様に 彼等の 村落 に ある 井戸の

dolo saman yekse siša yemcen〔imcin〕
中に サマンの 神帽, 腰鈴, 男手鼓,

91. agūra be suwaliyame emu pijan de tebufi sele futa ci akdulame
道具 を 併せて 1 皮箱 に 入れ, 鐵の 索 で しっかりと

hūwaitafi hocin〔hūcin〕de makta mini hese akū oci ume
縛り, 井戸 に 投げ入れよ, 朕の 旨 なく ば 取り

tucibure seme wasimbuha de ioi ši hafan songkoi icihiyame
出すなかれ」と 下諭した 時, 御 史 官は(旨の)如く 処

gamahabi, ere amala lo yuwan wai jui sergudai fiyanggo inu
理した。 この 後, 老 員 外の 子 セルグダイ フィヤンゴ も亦

ini ama i yabuha be alhūdame yadahūn be wehiyeme akū de
彼の 父 の 行い に 倣い, 貧者 を 扶け, 乏しき者 を

aisilame sain yabufi juse omosi jalan jalan wesihun hafan jiha
救い, 善を 行い, 子 孫は 世 世 貴 官(に昇り), 銭

menggun ambula bayan wenjeshūn〔S : wenjehun〕ohobi, ere uthai
銀も 大層 富 裕と なった。これ 即ち

sain da deribun bithe ofi geren de ulhibuhe, udu
「善美 根 源 書」であって 衆 に 悟らせるものである。いくら

tuttu bicibe amba doro de dosirakū miosihūn〔S:miosihon〕
かくかようであっても, 大 道 に はずれた 邪な

tacihiyan baita, amala urse alhūdaci ojorakū, eteme
教や 事がある。後世の 人々は 真似ては ならない。(悪に) 打勝ち

targaki,
戒めるように。

92. mentuhun mini majige amba muru nišan saman bithe be
愚昧な 私が 少し 大 略 ニシャン サマン 伝 を

tuwahangge, jaci aniya giyalabufi goidaha de yangiyan i gemu
見たのは 隨分 年 隔てて 久しい昔で 本当に すっかり

onggohobi, eden dadun〔D:dadan〕ba umesi labdu, sara
忘れてしまった。残 缺の 個所も 甚だ 多い。知っている

bade gūnime fisembume arahangge yargiyan yokta〔D : yokto[103]〕gese
事を 想い出し, 陳述し 書き記したもので 全く どうしたらよいのだろう。

aika gūwa baci yungkiyan〔yongkiyan〕sain ningge bahaci
もしも 他 所で 完全な 善 本が 得られたなら

ere bithede jukime araci inu ombi, erei jalin oros gurun wargi[104]
この 書に 補 写す べきである。この 為, ロシヤ 国の西(東)方

amba tacikū i manju bithe tacibure sefu dekdengge i baime
大 学 の 満州 語 教 師 デクデンゲ が お願い

alarangge
申し上げることは

gerbincig'ufu ge looye i baci sibkime tuwafi eden
Grebenshchikov Ge 先生 の 所で 詳究して 見ていただき, 残

ekiyehun ba bici wesihun galai fi jafafi nonggime
缺の 所が あれば 御自分で 手ずから ペンを 取り, 加筆し

fisembureo erei jalin donjibume arahabi,
記述して下さい。この 為に おしらせして 認めました。

註

1) baldu bayan : 人名, bayan は富者という意。
2) yuwan wai : 員外, 員外郎の略。定員外の官。員外は金を出して買う事ができたので, 富人の通称となっている。
3) ayan hiyan : 祭祀の時に焼く香い草。
4) fiyanggū : 末子の意。
5) ahalji bahalji は恐らく人名ではなく, ahalji は召使いの頭, bahalji は狩猟の際の獲物頭という程の人物であろう。dahalji 下僕, boigoji 主人, という用法もある。
6) anculan giyahūn :『大清全書』 1 :21B にこの語が見えるが訳語は記されていない。この二語で鷹狩用の鷹を意味するのであろう。
7) sure は聡明な, の意であるが, ここでは suru morin 白馬の謂であろう。
8) beliyen＝belin : 山本『満基』2477によれば, 満州語口語 belin は beliyen から転化した語で, 能なし, を意味する。belin age は sergudai fiyanggo を指して用いられている。

9) hadanaha 未詳。『大清全書』4 :18B に，hadahai tuwambi 注目而視之とある。hadanaha は hada- に 語幹末接尾辭 -na- がつき，釘づけになる，一点を凝視するの意を表わすと思われる。

10) uradumbi 未詳。urambi, urandambi ともに響くの意。uradumbi は ura- に語幹末接尾辞 -du-（共々に）がつき，響き合う，響鳴するの意を表わすものと思われる。

11) hoššome=hošotolome : Volkova は hoššome を hošotolome と校訂している。成氏ならびに Durrant 氏も原字のとおり hoššome とし，鄭重に取扱う意に解している。清文鑑によれば hoššombi は騙すの意であって鄭重に取扱うという意はない。hošotolombi は斜に包む意である。恐らく死体を大きな四角の布または皮に対角線上に斜に包みこんだのであろう。

12) namšan :『大清全書』3 :30Bに「剛好之詞」と見える。

13) 成氏は kuri とし D 氏は keire と比定した。keire は鬃と尾との黒い馬。

14) caise=caisi :『大清全書』10 :41A に caisi, 鐵枝と見える。

15) V 氏も成氏も buya と転写したが D 氏は guye とし kuo 菓の音訳とした。

16) 『清文総彙』4 :36B に「baran 兵之多寡，大略形像光景」と見える。

17) ku namun : ku は庫の音訳。

18) pan an 未詳。成氏は pan an は中国語からの借用語で pan は雲板，雲牌（楽器名）と関係があるとしている。D 氏は容姿の端麗さで著名な晋代の潘安仁に比定している。

19) yala は真実の意であるが，ここでは固有名詞に訳しておく。

20) 成氏は老人と訳し，D 氏は withered old servant と訳している。この語は sungkebi（寒気のため鬚，髪，草木等に水分が付着して淡白になった）と関係があると思うので「髪に霜を得た」と訳しておく。

21) 成氏は teteke と読み tenteke の意に解し，D 氏は teteke を固有名詞とし，荘氏は tewang と読んでいる。

22) 『乾隆内府輿図』8排東1には，吉林烏拉和屯の東南方に尼石哈必拉 Nisiha bira が見える。ニシャン・サマン伝はこの地方に伝わった物語であろうか。

23) V 氏は jorho fodoho（一種の柳）とし，成氏は jerguwen（欄干）の異形であるとした。物干竿のことであろう。

24) oilori deleri : 軽浮の，うわべだけの。

25) 『大清全書』11 :59B に julhun 嗓窩，馬脖，気眼などと見えるが文意にあわない。成氏は julhun を julgen の異形とし，運数，身数と解した。D 氏は nai julan とし，the circumstances of death と訳している。しかし必らずしも文意にあわない。わたくしは jijuhan の異形とし，易の卦の意に解しておく。

26) geyeme 未詳。geyembi は削刻するの意であるが，これでは文意をなさない。文脈からすれば太鼓をリズミカルに打ちたたくという意であろう。

27) hobage も deyangku もサマンの唱える誦念の合の手の一種であろう。

28) yayame=yayadame : yayadame は廻らぬ舌で喋る意であるが文意に合わない。ここでは誦念するという意に訳しておく。

29) kumuru 未詳。鬼の名であろうか。

30) wecen は祭の意であり，この場合には意味をなさない。weceku 神霊の意であろう。

31) ilban は光炕すなわち蓆の敷いてない温突のことで，ここでは文意に合わない。恐らく alban の変形で，官の認可という程の意であろう。

32) hanilambi 未詳。D 氏はシロコゴロフが「死の世界に行く」という意味を示す語として示した hanalambi の変形と解した。Shirokogoroff, S. M., Psychomental Complex of the Tungus. London : 1935, p. 308.

33) jarimbi は巫人が神前に在って唱名しつつ祈祷する意である。jari はシャマンの補助を勤める助祷巫の謂であろう。

34) geyen：本来は刻みの意。geyembi は刻む，削る意。geyen はリズムを打つ楽器あるいは歌調を示すと思われる。注26参照。

35) šašun を成氏，荘氏とも肉醬と訳し，D 氏は hsiao-shun 孝順の misspell だとしている。しかし šašun akū は不斉全，稀爛破（こまごまに破砕した）の意であるから，šašun は斉全，ととのった，などの意であろう。

36) endu 未詳。成氏は enduri と解している。weceku —wesihun, endu—erdemu と対句をなしているのであろう。

37) ilbaha：荘氏は光炕（むき出しの炕）とし，D 氏は V 氏に従って ilibuha とし，be established の意に解している。しかし恐らく ilimbaha の誤記で，習熟した，慣れた，の意であろう。

38) solho は高麗，朝鮮の意味である。成氏は solohi 騒鼠（いたちの一種）の異形であろうとし，D 氏は sulhumbi（地潤，地軟）と関連があるとしている。

39) yayan：注28に示した yayadambi の名詞形と解し，誦念と訳しておく。

40) hūsihan は婦人が腰から下につける衣。スカート。

41) yan cun：未詳。ここでは陽春と訳しておく。

42) dekennime：未詳。deken は小高い意であるから，声高に歌う意であろう。

43) *a*mba jilgan i *a*cinggiyame, *de*n jilgan i *de*kennime, *ha*ihungga mudan *ha*yaljame, *na*rhūn jilgan *na*ndame と頭韻を踏んでいる。

44) fikenci：成氏はこの語に fike（前腿上節）-ci と fisa（背）-ci の二つの可能性を示し，背からと訳した。D 氏は fihe（満たす）-ci とし，-n- は筆写のさいのミスだとしている。

45) damjan は天秤棒のこと。

46) fahabumbi は投げさせるの意であるが文意に合わない。恐らく，くらくらと意識を失う意であろう。

47) bayara は護軍の意であるが文意に合わない。恐らく baldu bayan（富者）と関連があり，bayan 姓のとか，或は富者の姓のという程の意であろう。

48) hungken 未詳。emu hungken jiha は1卯銭すなわち5692串369文の銭で文意に合わない。荘氏は何に依ったのかわからないが濕地と訳し，D 氏は hengkin（叩頭）としている。

49) arsun は根芽の意。ここでは nekeliyen-neifi, giramin-gidafi, wecen-wesihun, と頭韻を踏んでいるから，arsun は ejeme に対応して ersun（醜い）であるべきであろう。

50) dacin＝dancan：dancan は妻の実家の意であるが，この場合はただ実家という意。

51) dekdešeme＝dekderšeme：dekderšeme は叛心を起すの意であるが，ここでは眠っている心を呼びさまし浮き立たせる意であろう。

52) hontoho は半分の意であるが，破れた，割れたの意もある。

53) kemteku 未詳。D 氏はこの語を kengcembi（壓し潰される）と関係のある語の変形であるとしている。

54) V, S, D 三氏とも cecercuke（機嫌が悪い）としているが，ceceršembi（怒って手足をうち震わす）と関連のある語であろう。

55) da：1尋（ひろ）すなわち5尺。

56) seletu senggitu：sele は鐵，senggi は血であるから，seletu は鐵色をした，senggitu は血の色をしたという意であろう。seletu hutu は青鬼，senggitu hutu は赤鬼であろう。

57) hoyodombi は hoyombi と同様に hūyambi（鷹の類が鳴く）と関連のある語であろう。ここでは鈴が鳴る意に解しておく。

58) canggisa：成氏は檀木の鬼神名であろうとし，D 氏は cunggaisa すなわちしぎ科の鳥の一種の水花冠という鳥の複数形であるとしている。

59) ongnika：脆牲，熊に似て小さく，色淡黄にして白い縞のある動物。

60) mukden は盛京，瀋陽の意であるが，ここでは alin に対応した語で固有名詞ではない。恐らく mukderhun 沙（『大清全書』10：37B）の謂であろう。

61) uri は「地を掘って穀物を貯蔵する草の生えた凹地」の意である。ここでは faidan に対応した語で，縦列の段の意であろう。

62) 『大清全書』13：19A に hiyanglu 香爐とある。

63) gacuha：骨投げ遊びの道具。羊，獐等の小脛骨の下部に突出した長円骨で作った道具。

64) yohi：『大清全書』12：15A に「yohi, 成正果之説也」とある。

65) targa は「跳神の時に童子の衣服の背に附ける四角な布片。○出産の時に人が入らぬように産室の内に吊す草の束。戒めよ」等の意であるが，文意になじまない。ここでは turga（痩せた）の意に解しておく。

66) dekdeni：成氏は dekdeni gisun 諺，常言，dekden i gisun 風説，浮語との関連で，dekdeni を浮蕩と解している。

67) hailambi：神送りの踊りをしても神霊が享けず，神酒等を犠牲の豚の耳にそそいでも神霊が動かないの意。ここでははやし言葉として用いられている。

68) šulembi：税を取りたてる意。はやし言葉として用いられている。

69) aikime＝akiyame：akiyame gecehe は底まで凍ったという意であるから，akiyame は芯までの意と解される。

70) hungkenehe：V 氏と D 氏は hungkihe（軟かになった）とした。hungkimbi は「乾肉などを軟かにする為に打ち叩く」の意である。成氏は honggonoho（ぼろぼろになった）の意に解した。わたくしは成氏の説が妥当だと思う。

71) kudulembi＝kundulembi：成氏と D 氏は kutulembi とし，荘氏は kudulembi としている。わたくしは kundulembi（恭しくもてなす）と解する。津曲氏も kundulembi と転写している。

72) hor seme：『満和辞典』には「ぶるぶるっと。ふうと（馬がたじろいで鼻息を出す音」とあり，『大清全書』4：46B に「一気吃了。打鼾」とある。

73) kira 未詳。成氏は cira, V 氏，D 氏は giran, 荘氏は kiri（剛硬）に比定した。私は cira に比定し強壮の意に解しておく。

74) umesi：『大清全書』3：8B に umesi 至甚，至極とある。

75) 酆都城：道家で鬼神が事を治する所。地獄。

76) antahašambi は客となるの意。『異域録』1A に次の様に記される。

da maha yehe gurun de gebu gaime ujulaha niyalma de antahašame yabuha bihe
始 祖は エホ 国 にて 名 揚げて 頭立ちし 人 に 賓客として 往来し たりき。

77) omosi mama：『清文総彙』2：19A に「求福之神，即子孫娘娘」とある。

78) notašaci：V 氏は aššambi（動く）と解し，成氏は ušatambi（曳きずってゆく）の変形乃至転換であるとし，D 氏は nushumbi であろうとした。ここでは D 氏に従う。

79) der seme は真白なことの形容であるから，通常は der seme šeyen という語順になるところである。

80) ome tonggo 未詳。

81) ulmirengge 未詳。成氏は ulme（縫針），ulembi（まっすぐに縫う），ufimbi（縫う）などとの関連を示唆している。D 氏は ulambi（伝える）と解している。ここでは成氏に従って訳しておく。

82) ulame：貴人に対して言上するのに直接には言わず，侍者に伝えて言わしむるの意であろう。

83) hanilame 未詳。成氏は hacilame（陳奏する）hajilame（親しむ）などを挙げている。しかし文意からすれば尋ね探して来たとの意であろう。

84) horšome 未詳。D 氏は hurceme（他人の欠点をあばき立てる）に解した。しかし horšome は horon（威名）の動詞化した語で horolombi（威を示す）に近い意義を持つ語であると思われる。ここでは成氏の如く威を以て脅す意に解しておく。

85) fudehe turgunde：文意からすれば，fudehe akū turgunde（送らないので）とあるべきである。

86) tohoroko＝tohorokū：地に播いた種子をおさえる為の石のローラー。

87) hutu：成氏は hutu, D 氏は hoton と解している。ここでは後者に従う。

88) ebubun：下程。旅の客や官吏に贈る食物。はなむけの食料。

89) selgelehebi：成氏は selhen（首かせ）の動詞化した語であるとしている。

90) talahangge：talambi はうどん粉等を平たく伸ばして焼くこと。ここではうどん粉等を伸ばす際に無駄にこぼす者の意であろう。

91) niosihūn：成氏は niohon（怒って顔色青い）と解し，D 氏は miosihūn（邪）と解した。後者に従う。

92) gung：成氏 D 氏とも宮の意に解しているが，ここでは仏主，駙馬，太師，官員，将軍，大臣等の地位があげられているので，王公の公に解した方がよい。

93) keku は ilmaha と同じく懸壅垂のことであるが，ここでは拍子をとる為の語で特に意味はない。

94) gida nufi：成氏は gidanufi であろうとしている。gida と nufi を著者が誤って分かち書きしたのであろう。gidambi はかくす，圧えつけるの意。-nu- は動詞語幹末接尾辞で，相互にしあうという意であるが，この場合の用法は不明。

95) weinehe welgin 未詳。前文の ainaha algin の韻を受け，a が we に変形したもので誰の名声という程の意であろう。

96) hashūri yashūri 未詳。D 氏は特別の氏族の語であるとしている。

97) dekeneci 未詳。成氏は dengneci（小形のちぎ秤で量る）とし，D 氏は considered の意に解したが文意にそぐわない。私は deherembi（『大清全書』8：42B，搜尋）と関連のある語と解す。

98) feshure：成氏は fushere（扇子で扇ぐ）とし，D 氏もこれに従っている。しかしこの語は fusumbi（水を灑ぐ）と関係のある語で，魂をそそぎこむとの意であろう。

99) marin は mari の誤記と思われる。marin は帰来の意。mari は1回2回の回。

100) dekdeni gisun：諺，言いならわされた言葉。

101) haji には「親愛，友愛，凶年之凶，荒年之荒，親愛」（『清文総彙』）などの意があり，haji gucu には「情意相合好友」（『清文総彙』）の意がある。

102) toncihiyame 未詳。成氏は tongkime（挙要告訴）との関係を示唆している。『旧清語』巻10に「この tongkime という語は，句点打ちてという語なり。かく古語にて試巻を尽して句点打ちて見ざりしには」と見え，同文に対応する漢文に「同考官藍筆不全点閲」と見える。tongkimbi はくわしく点閲するの意である。今西春秋「旧清語訳解」『東方学紀要』3。

103) yokto：『大清全書』12：17A に「怎好意思，甚麽意」とある。

104) wargi：筆者 Dekdengge はウラジボストークのロシア東方研究所の研究員であるから wargi（西方）とあるのはおかしい。シボ語では wargi を東の意に用いることを D 氏が指摘しているが，満州語においても方言により東西の混用があったのであろう。Durrant〔1977. p. 165, Note 255〕参照。